

令和5年度  
(2023年度)

# 履修の手引

熊本県立大学

環境共生学部

令和5年度「履修の手引」は在籍期間を通じて使用しますので、大切に保管してください。

熊本県立大学では以下のとおり理念、目的、学位授与方針及び教育課程編成・実施の方針を定めています。

#### ◆ 理念

##### 1 総合性への志向

本学は、人文・社会・自然の学問の三分野から成る大学として、学際的な方法を重視しつつ、総合的な知の形成を目指す。

##### 2 地域性の重視

本学は、「地域に生き、世界に伸びる」を標榜（ひょうぼう）し、地域社会に開かれた大学として、当面する諸問題を分析し解決すること、地域の知的創造の拠点となることを目指す。

##### 3 国際性の推進

本学は、グローバル化に対応して、アジアをはじめ世界の多様な文化を学びつつ、諸外国の人々との交流を進め、国際的・多面的な文化の創造を目指す。

#### ◆ 目的（学則第1条）

熊本県立大学は、豊かな教養と高度な専門性を有し、総合的な知識と実践力、創造力を備えた有為な人材を育成するとともに、研究成果を社会に還元し、教育研究資源を地域に提供することを通じて、熊本県ひいては国際社会の発展に寄与することを目的とする。

#### ◆ 全学（学士課程）の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

##### 1 学生が身につける資質・能力の目標

###### <知識・理解>

幅広い知識・教養に基づき学問の意義を理解し、自己を認識して、将来を構想できる。

###### <思考・判断>

多角的視点を備え、自ら課題を抽出し、論理的、分析的に思考して、総合判断ができる。

###### <関心・意欲>

地域社会及び国際社会に興味・関心を有し、異質性を認めることができる。

###### <態度>

積極性、自律性及び行動力を身につけ、社会状況の変化に柔軟に対応でき、社会において協調し協働できる。

###### <技能・表現>

他者と理解しあい、共生していく上に必要なコミュニケーション能力がある。

##### 2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、学部の理念及び教育研究上の目的に沿って設定した授業科目を履修して、学部において定める所定の単位数を修得した学生に学位を授与する。

#### ◆ 全学（学士課程）の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

##### 1 教育課程の編成

全学共通の「共通教育」と各学部・学科の「専門教育」から編成する。

「共通教育」は、学部4年間の教育課程（学士課程）において総合的に学ぶことで広い視野から認識・思考する能力を身につけ、「専門教育」で修得する学問を充実したものとする教育を行う。また、大学ユニバーサル化時代における「市民性」の涵養をも視野に入れる。以上を理念とし、次のような方針で編成する。

・共通科目群を「基盤科目」と「教養科目」に分ける。

・基盤科目では、大学で学ぶための、また社会で行動していくための基礎能力を育成する教育を展開する。

特に初年次に、必修科目として、大学で学ぶ姿勢と方法を理解するとともに、自己のキャリアを継続的にデザインしていく能力を育成する科目を配置し、大学4年間での主体的・計画的な学修を促す。

・教養科目では、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識等を幅広く学び、様々な角度から物事を見ることができ、能力を培うことで豊かな人間性を養う、いわゆる「教養教育」を展開する。

「専門教育」は、各学部・学科の特性に応じ、講義、演習、実習、実験等の専門科目を順次性を考慮して、体系的に配置する。

##### 2 教育方法

・教育目標の達成に向け、各科目において、適切な形態を採って授業を展開するとともに、能動的学修を適切に組み込んで行う。

・学生の学修時間等の実態把握や授業計画の明確化、必要な授業時間の確保により、単位制度の実質化を図る。

##### 3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、授業、学科、学部、大学のそれぞれにおいて把握し、それに基づいて、授業、学科、学部、大学の各教育課程における学修成果を評価する。

・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。

・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。

・学科、学部としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、学科、学部独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。

・大学としての学修成果は、授業、学科、学部としての学修成果に基づき、総合的に評価する。

・専門教育の到達は、各学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

## ●環境共生学部理念

環境共生に係わる諸問題を総合的に捉え、人間活動を支える場として豊かな自然を保全しつつ、持続的に利用し、地域住民の快適で健康な生活を確保する方策、即ち、自然環境と人間活動との共生の方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上をめざす。

## ●人材養成の目的

環境共生学部では、人と自然とが共生していく際の諸問題を総合的に捉え、その方策を追求することを通して、地域の発展と人間福祉の向上をめざし、環境共生型社会の創造に貢献する人材を養成する。

環境共生学科のもと、環境資源学専攻では、環境問題を科学的に解明し、持続可能な対策を提案していくために必要な自然科学の基礎的知識と理解力を育み、生態系の仕組みや人間活動が環境に及ぼす影響を調査、解析、評価する能力を育成し、持続的循環型社会の創造に貢献する人材を養成する。

居住環境学専攻では、環境への負荷軽減、人間の健康・福祉等の視点を重視する居住環境に関する実践的な教育・研究を通じ、共生型居住環境の創造に必要なデザイン、計画、調整、構築に関する多様な能力を育成し、自然と共生した人と地球にやさしい居住環境を創造できる人材を養成する。

食健康環境学専攻では、自然環境へやさしく、地域の環境特性を反映した「食と健康」に関する教育・研究を通じ、医療・保健・福祉・食育活動の分野で活躍する管理栄養士や、食・健康・環境分野の研究および教育に携わり、地域社会の健康増進や運動指導に係わる人材を養成する。

## ●その他の教育研究上の目的

環境共生学部は、環境共生に係わる諸問題を総合的に捉え、人間活動を支える場としての豊かな自然を保全しつつ、持続的に利用し、地域住民の快適で健康な生活を確保する方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上をめざすことを理念とし、自然環境と人間活動との共生のあり方について教育・研究することを目的とする。

## ●学位授与方針（ディプロマポリシー）

### 【学部】

#### 1 学生が身につける資質・能力の目標

- 〈知識・理解〉・国際的な視野と自然科学・健康科学に係る（高度な）知識をもとに、人間活動と自然環境との共生に関わる地域あるいは地球規模の諸問題を総合的に捉え理解し得る能力をもつ。
- 〈思考・判断〉・環境共生型社会の創造に向けて、地域の発展と地域住民の快適で健康な生活や居住環境の向上を思考し、自ら行動するのに必要な判断能力・実践力をもつ。
- 〈関心・意欲〉・人間活動と自然環境との共生に関わる地域あるいは地球規模の諸問題に興味・関心をもち、その問題を解決する意欲と能力を修得している。
- 〈態度〉・環境共生の観点から地域あるいは地球規模の多様な諸問題を社会と協調しつつ主体的に活動し解決しようとする態度を有する。
- 〈技能・表現〉・自然科学・健康科学に係る多様な事象を総合的に捉え、快適で健康な生活や居住環境の向上を目指し活動する技術及び表現力を修得している。

#### 2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、環境共生学部の各専攻において定める所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

### 【環境資源学専攻】

#### 1 学生が身につける資質・能力の目標

- 〈知識・理解〉・自然科学に関する基礎的な知識をもとにして、環境共生に関わる諸問題を考察する能力を修得している。
  - ・生態系の仕組みを正しく理解し、人間活動が環境資源に及ぼす影響を調査、解析、評価する能力を修得している。
- 〈思考・判断〉・私たちを取り巻く様々な環境問題の中から、自ら課題を探索し、解決するために必要な総合的能力を修得している。
- 〈関心・意欲〉・環境に対する興味・関心を有し、国際的な視野をもって、地域あるいは地球規模での環境問題の解決に貢献しようとする意欲を有している。
- 〈態度〉・複雑化、多様化する環境問題に柔軟に対応できる幅広い視野と能力を修得している。
  - ・環境保全に関わるボランティア活動などに積極的に参画し、他者と協調しながら主体的に活動できる能力を修得している。
- 〈技能・表現〉・科学的、専門的な知識に基づいて、自然環境の素晴らしさを一般の人々に伝えるインタープリターとしての能力を修得している。

#### 2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、環境資源学専攻において定める所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

### 【居住環境学専攻】

#### 1 学生が身につける資質・能力の目標

- 〈知識・理解〉・建築・都市・地域の視点から自然と人が共生する真の姿を探索し、高度な専門性と倫理観を基に新しい居住環境を創造する能力を有する。
- 〈思考・判断〉・建築・都市・地域を取り巻く様々な課題を抽出し、論理的、分析的に思考し、判断する能力を有する。
- 〈関心・意欲〉・世界的視野に立って現代の諸相を捉え、地域の立場から複雑な問題群を解決しようとする意欲を有する。
- 〈態度〉・地域社会の変化に柔軟に対応でき、専門知識を活かし積極的、主体的に活動できる能力を有する。
- 〈技能・表現〉・専門分野の講義や実習で得た知識を統合して構想する能力と、その構想を具体化するための技術力と実践力を有する。

#### 2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、居住環境学専攻において定める所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

### 【食健康環境学専攻】

#### 1 学生が身につける資質・能力の目標

- 〈知識・理解〉・自然科学に関する基礎的な知識を基にして、食料・健康・環境に関する科学を総合的に理解し、専門分野に対する知識と技術を修得している。
- 〈思考・判断〉・専門分野の講義や実習で得た知識を統合し、食料・健康・環境に関わる諸問題を国際的な視野をもって捉え、地域の立場から解決するのに必要な思考・判断能力を有する。
- 〈関心・意欲〉・環境共生にかかわる諸問題に対する興味・関心を有し、食料・健康・環境に関わる複雑な問題を解決しようとする意欲を有する。
- 〈態度〉・食料・健康・環境に関する複雑な問題に対して柔軟に対応でき、積極的、主体的に活動して解決しようとする態度を有する。
- 〈技能・表現〉・「人と社会と自然との共生」の視点から、自然環境にやさしく、地域の環境特性を反映した「食と健康」のあり方を調査、解析、評価、実践するための技術力及び表現力を有する。

#### 2 学位の授与（学士課程）

4年以上在学し、1に掲げる資質・能力を身につけ、食健康環境学専攻で定める所定の単位を修得した者に学位を授与する。

## ●教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

### 【学部】

#### 1 教育課程の編成

- ・自然と人間が共生していく際の諸問題を総合的に捉え、その方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上を目指すことを理念とし、環境共生学科のもと、環境資源学専攻、居住環境学専攻及び食健康環境学専攻の3専攻を設ける。
- ・全学共通教育に加え専門科目として、学科共通教育及び各専攻の専門領域の教育を通して、環境共生型社会の創造に貢献する人材の育成を目指し、環境共生にかかわる諸問題と環境共生の理念を理解するため、フィールドワークを含む「導入科目」、自然科学の知識と理解力を養成する「基礎科目」並びに各専攻の専門的な能力を養成する「展開科目」を講義、演習、実習、実験等の順次性に配慮し、体系的に配置する。

#### 2 教育方法

- ・教育目標の達成に向け、各科目において、適切な形態をとって授業を展開する。また、能動的学修を適切に組み込んで行う。
- ・授業時間外の学修時間を確保し、単位の実質化を図る。
- ・本学の理念の一つである「地域性の重視」の教育面での取組として、環境共生の立場から地域を素材とした教育を行う。

#### 3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、学部において把握し、それに基づいて、学部の教育課程における学修成果を評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・学部としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、学部独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、各専攻の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

### 【環境資源学専攻】

#### 1 教育課程の編成

- ・環境共生に関わる諸問題を科学的に解明し対処するための基礎的な自然科学の知識と理解力を養成する。併せて、環境の成り立ちや生態系の仕組みを理解し、人間活動が環境資源に及ぼす影響を調査、解析、評価する能力を養成するために「専攻専門科目」を置き、環境資源の保全と適正利用による、持続可能な生物資源の生産技術並びに社会発展のための方策について教育する。
- ・「基礎科目」では、基礎的な自然科学の知識と理解力を幅広く養成するために、理科全般（物理学・化学・生物学・地学）、数学、統計学及び情報処理に関する科目を設置する。
- ・「展開科目」では、生態、生物資源、物質環境、環境計画の4分野に関する調査・分析能力を養成するために、各分野の講義科目及び実験・演習科目に加えて、環境評価をフィールドにおいて実践的に体験する4つの環境アセスメント実習（沿岸域環境アセスメント実習、森林環境アセスメント実習、水産環境アセスメント実習、植物生産環境アセスメント実習）を設置する。
- ・生態関係科目では、海洋及び森林の生態系の構造と機能、保全と利用のための方策を学ぶ科目を、生物資源関係科目では、海洋及び陸上で生産される生物資源の特性と機能、栽培・増殖法、生産環境、生産物の利用法を学ぶ科目を、物質環境関係科目では、環境における物質循環に関する化学的、物理的な知識と環境への影響評価手法を学ぶ科目を、環境計画関係科目では、環境資源の保全と恒久的利用、持続可能な社会発展に必要な計画論、法規、政策、制度について学ぶ科目を、それぞれ設置する。
- ・国境を越え、広域化、国際化する環境にかかわる諸問題に対応する能力を養成するために、共通科目群基礎科目の英語科目に加えて、専門科目群専攻専門科目基礎科目に英語科目（Science English）を設置する。

#### 2 教育方法

- ・教育目標の達成に向け、各科目において、適切な形態をとって授業を展開する。また、能動的学修を適切に組み込んで行う。
- ・授業時間外の学修時間を確保し、単位の実質化を図る。
- ・本学の理念の一つである「地域性の重視」の教育面での取組として、環境共生学及び資源循環科学の立場から地域を素材とした教育を行う。

#### 3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、専攻において把握し、それに基づいて、専攻の各教育課程における学修成果を評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・専攻としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、専攻独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、専攻の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

## 【居住環境学専攻】

### 1 教育課程の編成

本専攻の「環境共生」の理念のもと、環境への負荷軽減、人間の健康・福祉等を重視し、住居から建築・都市・地域に至る居住環境の全体を見据え、実体験に基づいた科学的認識能力と、居住環境をまもり育てる専門的な技術を持った人材を育成する。そこで、以下のようなカリキュラムを編成する。

- (1) 本専攻は居住空間計画、都市・地域計画、環境調整・設備、構造・材料の4分野から構成され、各分野において基礎から応用まで段階的に修得できるように科目を設置する。基礎的な科目はすべて必修科目に指定し、初年度から基礎的な実習を取り入れて主体的な学修を促す。また、実験・実習・演習の科目を多く設け、講義で得た知識を実験・実習・演習で体感し、自ら主体的に取り組み、より深く認識できる構成とする。
- (2) 居住空間計画及び都市・地域計画分野では、地域の課題を浮き彫りにする内容とともに、国際的な視野で課題を考えることができる力を養うべく、多くの外国事例などをとりあげて幅広く講義する科目群を設置する。
- (3) 環境調整・設備及び構造・材料分野では、自然環境との共生と環境負荷の軽減を目指すとともに、人と地球にやさしい建材である木質材料を重視した関連科目群を設置する。
- (4) 卒業時に、一級建築士、二級建築士の受験資格が得られ、更に様々な進路も選択できるようなカリキュラム構成とする。

### 2 教育方法

- ・教育目標の達成に向け、各科目において、適切な形態をとって授業を展開するとともに、能動的学修を適切に組み込んで行う。
- ・学生の学修時間等の実態把握や授業計画の明確化、必要な授業時間の確保により、単位制度の実質化を図る。

### 3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、専攻において把握し、それに基づいて、専攻の各教育課程における学修成果を評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・専攻としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、専攻独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、専攻の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

## 【食健康環境学専攻】

### 1 教育課程の編成

- ・自然科学に関する基礎的知識を基にして、専門分野における知識と技術の修得が可能となる科目を、段階的に、総合的に学修できるように配置する。特に、大学教育で得られた知識をもとに自ら考え、発展させる能力や、レポート作成、プレゼンテーション能力などを養うことを目指し、実験・実習・演習科目を重点的に配置する。
- ・食・健康・環境に関わる様々な問題を国際的な視野をもち、地域の立場から、自ら発見し解決する思考力・判断能力を修得するための科目を配置する。
- ・自然環境や地域の環境特性を反映した地域住民の健康づくり、疾病の予防・治療、食品開発などに寄与できる技術や態度を修得できるように、食品の機能、人体の構造と機能、栄養素の体内での変化、食生活と生活習慣病予防、疾病と栄養、バイオテクノロジーと食品開発、食品の安全性と健康、身体活動と健康管理、食糧生産などに関連する科目を配置する。
- ・所定の単位を修得すると、以下の免許や受験資格が得られるように科目を配置する。

- (1) 管理栄養士免許受験資格
- (2) 栄養士免許
- (3) 食品衛生監視員・管理者（任用資格）
- (4) 中学校・高等学校教諭一種免許状（家庭科・理科）、高等学校教諭一種免許状（農業）
- (5) 栄養教諭一種免許状

### 2 教育方法

- ・教育目標の達成に向け、各科目において、適切な形態をとって授業を展開する。また、能動的学修を適切に組み込んで行う。
- ・授業時間外の学修時間を確保し、単位の実質化を図る。
- ・本学の理念の一つである「地域性の重視」の教育面での取組として、環境共生及び食健康環境学の立場から地域を素材とした教育を行う。

### 3 学修成果の評価

学位授与方針（ディプロマポリシー）に掲げる資質・能力の修得状況を、専攻において把握し、それに基づいて、専攻の各教育課程における学修成果を評価する。

- ・授業の単位認定は、「シラバス」に定める成績評価基準により担当教員が行う。
- ・授業の学修成果は、「シラバス」に定める成績評価基準と学生自身の自己評価に基づいて評価する。
- ・専攻としての学修成果は、個々の授業における学修成果の集計と学生の学修状況に基づき、専攻独自の評価方法を加味し、総合的に評価する。
- ・専門教育の到達は、専攻の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づく評価表等を用いた卒業論文評価により確認する。

# 目 次

## 環境共生学部

I	令和5年度（2023年度）授業暦	6
II	履修の概要（全学年共通）	
1	授業科目区分	11
2	単位について	11
3	学期区分及び授業時間	12
4	試験について	12
5	履修登録手続きについて	13
6	GPA制度について	16
III	履修について	
1	共通科目群について	19
2	専門科目群について	25
3	環境資源学専攻の教育課程紹介	26
4	居住環境学専攻の教育課程紹介	28
5	食健康環境学専攻の教育課程紹介	30
6	進級の要件	32
7	卒業論文履修要件	32
8	卒業の要件	32
9	他学部開講科目の履修について	32
10	外国人留学生の特別科目に関する履修の特例について	32
11	授業一覧	35
12	各種免許状の取得について	
12-1	教育職員免許状の取得について	46
12-2	一級建築士・二級建築士	56
12-3	一級建築施工管理技士・二級建築施工管理技士	57
12-4	栄養士免許	58
12-5	管理栄養士免許	59
12-6	食品衛生監視員及び食品衛生管理者	61
IV	履修モデル	65

大学関係の規定等について

### 掲示を見る習慣をつけましょう

学生の皆さんへの連絡は、原則として掲示により行います。来学時には、必ず学内の掲示板（講義棟1号館学生ロビー、本部棟ホール、大ホール前学生ロビー）、学生ポータル等を確認してください。なお、主要な掲示は大学ホームページにも掲載しますが、個人情報保護の観点から掲載できない内容もありますので、学内掲示を必ず見るようにしてください。また、環境共生学部西棟1階及び南棟1階の掲示板には環境共生学部の学生を対象としたお知らせが掲示してありますので、こちらも見るようにしてください。

# I 令和5年度（2023年度）授業暦

※今後の状況によって変更が生じる場合があります。

熊本県立大学（前学期）

	日	月	火	水	木	金	土	日	備考					
2023 4月							1							
	2	3	4	5	6	7	8		4/8 入学式					
	9	10	①	11	①	12	①	13	①	14	①	15		4/10 前学期授業開始 4/10-19 履修登録期間
	16	17	②	18	②	19	②	20	②	21	②	22		
	23	24	③	25	③	26	③	27	③	28	③	29	祝	
5月	30	1	休	2	休	3	祝	4	祝	5	祝	6		5/1 休校日 5/2 開学記念日
	7	8	④	9	④	10	④	11	④	12	④	13		5/13 体育祭（PUK リンピック）
	14	15	⑤	16	⑤	17	⑤	18	⑤	19	⑤	20		
	21	22	⑥	23	⑥	24	⑥	25	⑥	26	⑥	27	補	5/27 補講日
6月	28	29	⑦	30	⑦	31	⑦	1	⑦	2	⑦	3		
	4	5	⑧	6	⑧	7	⑧	8	⑧	9	⑧	10		
	11	12	⑨	13	⑨	14	⑨	15	⑨	16	⑨	17		
	18	19	⑩	20	⑩	21	⑩	22	⑩	23	⑩	24	補	6/24 補講日
7月	25	26	⑪	27	⑪	28	⑪	29	⑪	30	⑪	1		
	2	3	⑫	4	⑫	5	⑫	6	⑫	7	⑫	8		7/8 入学試験（研究科秋季入学）
	9	10	⑬	11	⑬	12	⑬	13	⑬	14	⑬	15		7/15 オープンキャンパス準備日 7/16-17 オープンキャンパス
	16	17	祝	18	⑭	19	⑭	20	⑭	21	⑭	22		7/22-23 オープンキャンパス予備日
8月	23	24	⑮	25	⑮	26	⑮	27	⑮	28	⑮	29	補	7/29 補講日 7/25-31 補講週間（各日6限目）
	30	31	⑯	1	補	2	試	3	試	4	試	5		8/1 補講日
	6	7	試	8	試	9	試	10		11	祝	12		8/2-9 前学期試験日
	13	14	休	15	休	16		17		18		19		8/10-9/28 夏季休業 8/14, 15 サマー・ECOデー
	20	21		22		23		24		25		26		8/26 入学試験（環境研究科）
9月	27	28		29		30		31		1		2		8/27 電気設備点検に伴う停電
	3	4		5		6		7		8		9		
	10	11		12		13		14		15		16		
	17	18	祝	19		20		21		22		23	祝	9/22 秋季卒業式（予定） 秋季入学式（予定） 前学期成績発表（予定）
	24	25		26		27		28		29	①	30		9/23-24 入学試験（文・アドミニ研究科）

○各授業時間  
 1時限 8:40~10:10      2時限 10:20~11:50      3時限 12:50~14:20  
 4時限 14:30~16:00      5時限 16:10~17:40      6時限 18:00~19:30

・4/29 昭和の日    ・5/3 憲法記念日    ・5/4 みどりの日    ・5/5 こどもの日  
 ・7/17 海の日    ・8/11 山の日    ・9/18 敬老の日    ・9/23 秋分の日



熊本県立大学（後学期）

	日	月	火	水	木	金	土	備 考
2023								
10月	1	2 ①	3 ①	4 ①	5 ①	6 ②	7	9/29 後学期授業開始 9/29-10/8 履修登録変更期間
	8	9 祝	10 ②	11 ②	12 ②	13 ③	14	10/14-15 入学試験（自己推薦型選抜）
	15	16 ②	17 ③	18 ③	19 ③	20 ④	21	
	22	23 ③	24 ④	25 ④	26 ④	27 ⑤	28	
11月	29	30 ④	31 ⑤	1 ⑤	2 ⑤	祝 ⑥	4	11/3 金曜日第6回授業日
	5	6 ⑤	7 ⑥	8 ⑥	9 ⑥	10 休	11	11/10 休講（白垂祭準備） 11/11-12 白垂祭
	12	13 ⑥	14 ⑦	15 ⑦	16 ⑦	17 ⑦	18 補	11/18 補講日
	19	20 ⑦	21 ⑧	22 ⑧	23 祝	24 ⑧	25	
12月	26	27 ⑧	28 ⑨	29 ⑨	30 ⑧	1 ⑨	2	12/3 入学試験（特別選抜） 12/9 補講日
	3	4 ⑨	5 ⑩	6 ⑩	7 ⑨	8 ⑩	9 補	
	10	11 ⑩	12 ⑪	13 ⑪	14 ⑩	15 ⑪	16	
	17	18 ⑪	19 ⑫	20 ⑫	21 ⑪	22 ⑫	23	
	24	25 ⑫	26	27	28	29	30	12/26-1/9 冬季休業
2024								
1月	31	1 祝	2	3	4	5	6	1/10 授業再開
	7	8 祝	9	10 ⑬	11 ⑫	12 休	13	1/12 大学入学共通テスト設営（立入禁止） 1/13-14 大学入学共通テスト（立入禁止）
	14	15 ⑬	16 ⑬	17 ⑭	18 ⑬	19 ⑬	20	1/20-21 大学入学共通テスト予備日
	21	22 ⑭	23 ⑭	24 ⑮	25 ⑭	26 ⑭	27 補	1/27 補講日
2月	28	29 ⑮	30 ⑮	31 補	1 ⑮	2 ⑮	3	1/24, 29-30, 2/1-2 補講週間（各日6限目） 1/31 補講日
	4	5 試	6 試	7 試	8 試	9 試	10	2/3 入学試験（私費外国人留学生） 2/3-4 入学試験（研究科入試）
	11 祝	12 祝	13 試	14	15	16	17	2/5-13 後学期試験日 2/11 入学試験（環境研究科）
	18	19	20	21	22	23 祝	24	2/22 入学試験（一般・前期）設営（立入禁止）
3月	25	26	27	28	29	1	2	2/25 入学試験（一般・前期）（立入禁止）
	3	4	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	3/11 入学試験（一般・後期）設営（立入禁止） 3/12 入学試験（一般・後期）（立入禁止）
	17	18	19	20 祝	21	22	23	3/21 卒業式（予定）
	24	25	26	27	28	29	30	3/22 後学期成績発表（予定）
	31							

○各授業時間 1時限 8:40~10:10 2時限 10:20~11:50 3時限 12:50~14:20  
4時限 14:30~16:00 5時限 16:10~17:40 6時限 18:00~19:30

・10/9 スポーツの日 ・11/3 文化の日【授業日】 ・11/23 勤労感謝の日  
・1/1 元日 ・1/8 成人の日 ・2/11 建国記念の日(2/12 振替休日) ・2/23 天皇誕生日 ・3/20 春分の日



## Ⅱ 履修の概要（全学年共通）



## II 履修の概要（全学年共通）

### 1 授業科目区分

本学では、次のとおり授業科目を区分し、教育課程を編成しています。

科目群ごとの区分は次のとおりですが、学部、学科・専攻によって内容、履修方法等が異なるので注意してください。

区分	分類	分野
共通科目群	基盤科目	外国語（英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語）、健康スポーツ科学、情報処理とデータサイエンス、キャリアデザイン、地域理解とリーダーシップ
	教養科目	人間と文化、自然と環境、社会と世界
専門科目群		
教職関連科目群		

### 2 単位について

単位とは、学修の量についての基準を示すものであり、授業と図書館、自宅などにおける授業時間以外の合計45時間の学修をもって1単位としており、授業科目ごとに単位数が定まっています。授業の履修によりそれらを積み重ね、一定数の単位の修得をもって卒業の要件としています。

〈1単位の修得に必要な学修時間〉

授業の形態	授 業	授業以外の時間	合 計
講 義	15～30	30～15	45（時間）
演 習	15～30	30～15	45（時間）
実験・実習	30～45	15～0	45（時間）

通常、毎週行う講義では、時間割の1コマ（90分）を2時間、演習は1～2時間（授業科目によって異なる。）とみなしており、前学期・後学期（各15週）の1コマ授業であれば1～2単位（授業科目によって異なる。）、実験科目は各週2コマ授業で1単位、実習科目は各週2コマ授業で1単位または各週3コマ授業で2単位修得できるようになっています。

なお、具体的には、授業科目ごとに修得できる単位数が設定されていますので、専攻ごとの授業一覧を参照してください。

### 3 学期区分及び授業時間

4月から9月までが前学期、10月から翌年3月までが後学期であり、科目履修の1つの区切り目となっています。授業時間は下記のとおりとなっています。

※授業時間は、新型コロナウイルス感染拡大状況に鑑み変更されることがあります。

午 前		午 後	
1時限目	8:40～10:10	3時限目	12:50～14:20
2時限目	10:20～11:50	4時限目	14:30～16:00
		5時限目	16:10～17:40
		6時限目	18:00～19:30

なお、授業科目によって、夏季休業中などに日時を設定し、集中講義の形式で授業を行うこともあります。

### 4 試験について

#### (1) 試験の方法

通常は定期試験として前学期末、後学期末の2回行われますが、集中講義などの場合、臨時に行われることもあります。試験日程は学生ポータル及び学内掲示板により示されます。また、レポート提出などの方法により行われることもあります。この他に、病気、怪我、就職試験の受験、忌引、不慮の災害その他やむを得ない事情により試験を受験できなかった場合、追試験を行うことがあります。追試験を希望する学生は、当該授業科目の試験終了後7日以内に科目担当者の許可を得て「追試験受験許可願」を教務入試課に提出してください。

また、受験の際は、必ず**学生証**を持参し、机上に掲示しておかなければなりません。

学生は受験にあたっては、あらかじめ「熊本県立大学試験に関する規程」及び「定期試験の受験心得」を熟読しておいてください。

当該授業科目の開設される学期中に除籍され、停学に処され、退学し、又は休学した者に対しては、成績の認定は行われません。

#### (2) 成績の評価

次の5段階に評価されます。

秀	100点 ～ 90点	合格
優	89点 ～ 80点	
良	79点 ～ 70点	
可	69点 ～ 60点	
不可	59点以下	不合格

追試験の成績は得点の9割以下とし、再試験（試験に不合格だった者が再度受ける試験）の成績は、最高成績を合格最低成績60点とします。

秀、優、良又は可の評価を受けた者は、その科目所定の単位が認定されます。不合格となった科目は、必要に応じ翌年度以降にあらためて履修することになります。

既に単位を修得した科目について、改めて履修手続きを経たうえで、再度履修することができます。

学業成績は、教務システム（Campusmate）で確認してください。確認ができるようになる期日については、学内掲示により周知します。

## 5 履修登録手続きについて

### 基本的注意事項

- (1) 履修登録は、単位を修得するために必要な手続きであり、これを怠ったり、誤ると単位が修得できないので慎重に行ってください。履修登録をしないで授業を受け、試験を受けても単位は修得できません。
- (2) 次の授業科目は履修できないので注意してください。
  - ① 履修登録をしていない授業科目
  - ② 上学年次に開設されている授業科目
  - ③ 授業時間が重複する2つ目以上の授業科目

※ ただし、ともに隔週開講で1週おきに授業が行われる科目同士は履修が可能です。
- (3) 履修登録期間終了後の登録は原則認められません。分からないことがあれば、必ず履修登録期間内にチューター、学年担任、所属する専攻の教務委員、所属する研究室の教員等へ尋ねてください。
- (4) 他の学部、学科・専攻の授業科目を履修したい場合は、「Ⅲの9 他学部等開講科目の履修について」を参照してください。
- (5) 当該授業科目が開講される学期中に休学した場合は、その授業科目の単位は修得できません。
- (6) 通年の授業科目については、後学期の授業を先に受講しても単位は修得できません。
- (7) 実験、実習、演習、卒業論文、教育実習についても、履修登録が必要です。
- (8) 登録内容の確認を怠ったり、期限を守らなかった場合には、どのような履修上の不利益が生じても本人がその責任を負わなければなりません。
- (9) 手続きに変更が生じた場合、その時点で、学内掲示板・学生ポータル・学内メールのいずれかの方法でお知らせします。そのため、履修登録期間中は毎日掲示やメールを確認してください。

### 注意事項（重要）

令和2年度から全学部<sup>(※)</sup>でキャップ制（履修登録単位数の上限設定）が導入されています。これに伴い、1年間に49単位（前学期・後学期の合計単位数）を超えて履修登録することができません。（履修規程第2条の2第1項）

ただし、①教職関連科目群科目・関連科目（他学部・他専攻科目として履修する場合は除く）、②インターンシップ、③大学院科目の早期履修、④長期休業中の恒久的な集中講義については、キャップ制の除外科目です。（履修規程第2条の2第2項）

キャップ制の趣旨は、履修科目について講義を受講するだけでなく、予習・復習により理解を深め、知識を確かなものにしてもらうことにあります。後学期受講科目や集中講義を含めた年間の履修計画を立てて履修登録してください。

なお、年間通じて一定以上の成績を修めたくて申請を行った場合、次年度の履修登録単位数上限が緩和されます。成績の基準はP.16「6 GPA制度について」の(3)③をご覧ください。

※ 環境共生学部環境共生学科食健康環境学専攻を除く。

### 履修登録

- (1) 本書、シラバス及び前年度成績などを参考に、授業時間割と照合して1年間に履修する授業科目を決定し、後学期分を含めて、教務システム（Campusmate）により履修登録してください。
- (2) 履修登録期間中に登録入力を完了してください。登録の完了前に、履修計画表の次の事項を確認してください。
  - ① 必修科目、集中講義はもちろん、他にも履修科目の入力もれはないか。
  - ② 卒業論文や演習、教育実習の入力を忘れていないか。
- (3) 履修登録期間は授業開始日から10日間ですので、期限を厳守してください。
- (4) 登録前に履修の手引（本書）、webシラバスをよく読んでください。
- (5) 履修登録期間以外の追加・変更登録は認められませんので慎重に登録してください。
- (6) 履修登録について掲示しますので、履修登録期間中は毎日掲示を見てください。
- (7) 履修登録者が教室の収容定員を超えた授業科目については、履修者数の制限を行う場合があります。制限方法については、授業の中で説明しますので必ず初回授業に出席してください。
- (8) その他：「Q&A」（次頁）を参照してください。

## 履修登録についてのQ&A

- Q 1 : 履修すべき科目や、卒業要件について教えてもらえますか。
- A 1 : チューター、学年担任、所属する専攻の教務委員、所属する研究室の教員等へお尋ねください。
- Q 2 : 履修登録期間に登録するのを忘れてしまいました。期間経過後に受け付けてもらえますか。
- A 2 : 追加・変更も含め受け付けません。「5 履修登録手続きについて」の、基本的注意事項の(3)及び(8)を参照してください。履修登録しなかった科目の単位は修得することができません。
- Q 3 : 履修登録すべき授業科目やクラスなどが間違っていたことに履修登録後に気付いたのですが変更できますか。
- A 3 : 履修登録期間中及び後学期履修登録変更期間中であれば変更できます。
- Q 4 : 同じ曜日・時限に開講されている、複数の科目を受講することができますか。
- A 4 : 「5 履修登録手続きについて」の、基本的注意事項(2)の③を参照してください。
- Q 5 : 語学の再履修クラスと他の授業科目が重複しているのですが、どう対処したらいいですか。
- A 5 : 必修科目と重複している等、やむを得ない場合は語学担当教員や教務委員に相談してください。
- Q 6 : 集中講義の履修登録をしたいのですが、開講時期が未定のものはいつ登録すればよいのですか。
- A 6 : 集中講義も前学期の履修登録期間に登録してください。  
ただし、履修削除については、集中講義の日程を掲示した日から開講初日（初日が休業日の場合はその直前の平日）まで受け付けます。詳細は、掲示を確認してください。
- Q 7 : 新しい科目等への変更があったようで、授業一覧にある科目が履修登録画面に表示されませんが、どうしたらよいですか。
- A 7 : カリキュラムが変更された場合、入学時の授業一覧にある科目の代わりに新カリキュラムの科目を登録・履修できる場合があります。これを「単位の読み替え」と言い、履修ガイド（2年生以上を対象に学生ポータルへ掲載）等で示す読替表に沿って履修登録をしてください。単位は授業一覧に記載された科目名に対して認定されます。
- Q 8 : 教務システム（Campusmate）でエラーが出るのですが、どのように対処したらよいですか。
- A 8 : 主なエラーと、対処法は以下のとおりです。その他に新たなエラーが発生した場合は、対処方法について掲示を行うか教務システム（Campusmate）のトップメニューに表示させるので確認してください。
- ・ユーザIDまたはパスワードが違います
    - ユーザIDにg+（学籍番号）を入力してください。
    - パスワードが間違っています。
  - ・セッションがタイムアウトになりました
    - ブラウザのウインドウを閉じ、再度ログインしてください。
- Q 9 : 教務システム（Campusmate）で分からないところがあるのですが、どこに問い合わせしたらよいですか。
- A 9 : ログイン画面以降についての問い合わせは教務入試課で受け付けます。デジタルイノベーション推進センターでは回答できないので注意してください。また、エラーメッセージが表示された場合はメッセージの内容を正確に書き留めておいてください。正確なエラーメッセージが分からない場合は、質問に回答できない場合があります。



## 履修登録手続きフローチャート

授業科目決定	各自、シラバス、時間割、前年度成績（成績通知表）などを参考に1年間に履修する授業科目を決定する。
--------	--



履修登録 前学期授業開始日から 10日間 <sup>※1</sup>	各自、履修する授業科目（後学期開講科目も含む）を、 <u>情報処理実習室のパソコン等を使用し<sup>※2</sup></u> 、教務システム（Campusmate）により登録する。登録の内容は、各自履修登録画面前期で確認し、必ず各画面を印刷して保管する。 2年次生は、自己判定で進級が可能かどうかの判定をする。 3年次生は、自己判定で卒論履修が可能かどうかの判定をする。 4年次生は、自己判定で卒業が可能かどうかの判定をする。
--	---



前学期（通年）の履修科目確定

後学期履修変更 後学期授業開始日から 10日間 <sup>※1</sup>	各自、履修科目（後学期開講科目のみ対象）の変更内容を、 <u>情報処理実習室のパソコン等を利用し<sup>※2</sup></u> 、教務システム（Campusmate）により登録する。登録の内容は、各自履修登録画面後期で確認し、必ず各画面を印刷して保管する。 2年次生は、自己判定で進級が可能かどうかの判定をする。 3年次生は、自己判定で卒論履修が可能かどうかの判定をする。 4年次生は、自己判定で卒業が可能かどうかの判定をする。
---	---



後学期の履修科目確定

- ※1 仮履修登録期間が先行して設定されている場合は、まずその期間に登録を行ってください。仮履修登録期間についてのお知らせは、学生ポータルサイトのお知らせ記事や学内掲示版で確認できます。仮履修登録期間に登録しなかった場合、遠隔授業のクラス登録が間に合わず、最初の1～2回目の授業に参加できないことがあります。
- ※2 学外から教務システム（Campusmate）にアクセスし、履修登録をすることも可能ですが、予め学内での設定が必要です。

## 6 GPA制度について

GPA (Grade Point Average) 制度は、アメリカの大学で広く採用され、最近では日本でも多くの大学で導入されている成績評価システムです。本学でも、GPA制度が適用されます。(熊本県立大学履修規程第10条)

### (1) 本学のGPA算定方法

本学では、各科目の「秀、優、良、可、不可」の5段階の成績評価とは別に、授業科目毎の成績評価(試験の得点、得点は100点満点)に対し下記の計算式に基づきポイントを付与し、1単位当たりの平均を算出し、5点満点で表記します。

$$\text{科目毎G P} = (\text{得点} - 50) \div 10 \text{ 【ただし、得点が50以下のときは0とする。】}$$

$$\text{学期毎G P A} = \frac{[(\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{科目毎G P})] \text{の総和}}{(\text{履修登録科目の単位数}) \text{の総和}}$$

$$\text{累 積G P A} = \frac{[(\text{入学後の履修登録科目の単位数}) \times (\text{科目毎G P})] \text{の総和}}{(\text{入学後の履修登録科目の単位数}) \text{の総和}}$$

GPAは、5点満点で、小数点第1位まで表記(小数点第2位以下切り捨て)しています。ただし、成績優秀者表彰などで順位を出す必要がある場合は、小数点第2位以下まで算出しています。

### (2) GPAに算入しない科目(次に掲げる科目については、GPA算定の対象外としています。)

①教職関連科目群、②インターンシップ(1～7)、③食健康環境学専攻の関連科目群、④総合管理学部専門科目群中の関連科目、⑤他大学等での履修科目、⑥外部試験による単位認定科目

### (3) GPAと学生生活との関連について

#### ① 成績優秀者表彰

GPAが優秀な者に対して、大学から表彰を行います。

- 1) 成績優秀賞 各学期において、GPA算定対象科目を10科目以上修得し、かつGPAが3.5以上で学科(環境共生学部にあつては専攻)毎に上位5%以内の者
  - 2) 特別成績優秀賞 各学期において、GPA算定対象科目を10科目以上修得し、かつ4学期連続してGPAが4.0以上の者
  - 3) 学長賞 卒業時に卒業要件を4年間にすべて充足し、かつ累積GPAが4.0以上で、卒業論文(研究)を優秀な成績で修めた者のうち、学長が認める者
- 1)と2)の表彰式は6月(前年度後学期分)と11月(当該年度前学期分)の年2回開催されます。  
3)の表彰は卒業式時に行われます。いずれも表彰状及び記念品が授与されます。

#### ② 成績不振者に対する個人指導

学期毎GPAが2.0未満の学生に対しては、担当教員から個人指導が行われます。

#### ③ その他

次のような場合にGPAが利用されます。

- 1) キャップ制の上限緩和(文学部) 通年GPA3.8以上、(環境共生学部) 通年GPA3.6以上、いずれも4単位
- 2) 上級学年配当科目の履修条件(総合管理学部のみ) GPA3.5以上の者、6単位
- 3) 大学院科目の履修条件(文学部及び総合管理学部)
- 4) その他、授業料の減免や奨学金関係の成績要件等の判定

### Ⅲ 履修について



### Ⅲ 履修について

#### 1 共通科目群について

学部4年間の教育課程（学士課程）において総合的に学ぶことで広い視野から認識・思考する能力を身につけ、「専門教育」で修得する学問を充実したものとする教育を行います。また、大学ユニバーサル化時代における「市民性」の涵養をも視野に入れます。以上を理念とし、次のような方針で編成しています。

- ・共通科目群を【基盤科目】と【教養科目】に分ける。
- ・【基盤科目】では、大学で学ぶための、また社会で行動していくための基礎能力を育成する教育を展開する。特に初年次に、必修科目として、大学で学ぶ姿勢と方法を理解するとともに、自己のキャリアを継続的にデザインしていく能力を育成する科目を配置し、大学4年間での主体的・計画的な学修を促す。
- ・【教養科目】では、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識等を幅広く学び、様々な角度から物事を見ることが出来る能力を培うことで豊かな人間性を養う、いわゆる「教養教育」を展開する。

科目分野毎の目的は次のとおりです。

#### 【基盤科目】

##### (1) 外国語

国際化の進展に伴い、発生する社会的諸問題もまた国際化する傾向にあり、これに対処するため、英語、ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語を置き、国際的なコミュニケーション能力の向上を目的とします。（次頁に詳細を説明）

##### (2) 健康スポーツ科学

自己の健康を自分自身で管理していくこと、また、健康維持や余暇活動に対するスポーツの有効性について理解を深めるとともに、生命のしくみや不思議さ・巧みさに関心を持ち、将来にわたり「からだと脳の健康」のために行動できる知識を得ることを目的とします。

##### (3) 情報処理とデータサイエンス

現代において不可欠な情報機器や情報ネットワークの活用能力の修得と情報モラルと情報セキュリティについて理解することを目的とします。また近年のデジタル社会ではビッグデータやAIの利活用によりデータが価値を生み出すようになっており、ここで必要となるデータサイエンスの基礎素養の修得も目的としています。

##### (4) キャリアデザイン

大学生活が様々な分野で活躍する社会人としての自己実現のための一過程であることを認識し、主体的に自らのキャリアを構築していくための方法を学ぶことを目的とします。

##### (5) 地域理解とリーダーシップ

地域への知識・理解を深め、他者と共生・協働する重要性を認識し、それらを基盤としながら発展的に応用し得る実践的能力を獲得することを目的とします。

#### 【教養科目】

##### (1) 人間と文化

豊かな人間性を涵養するため、人間の本質に対する洞察を深め、精神的活動の所産としての文化を理解することを目的とします。

##### (2) 自然と環境

科学技術の基本的な原理や最先端の利用法に対する理解を深め、科学技術の現代社会及び環境問題とのかかわりについて多角的な考察を行うことを目的とします。

##### (3) 社会と世界

法律、政治、経済、情報等様々な要因から規定されている社会が我々の生活にどのようにかかわっているのかを学ぶことを目的とします。また、グローバル化が進展する現代世界における経済問題・国際関係についての理解を通し、我が国の国際的位置付けや役割などについて考察し、国際人としての見識を養うことを目的とします。

※(1)～(3)に含まれている「Global Studies I～Ⅲ」は留学等で外国の大学で取得した単位を本学の単位として読み替えるための科目です。「Global Studies I～Ⅲ」については留学前の相談が必要です。

## 〈英語〉

### （全学的目標）

英語での対話を通して情報のやりとりを行い、また、新聞等の日常的な文章を理解し、自分の考えを文章にできる。異文化に対する興味関心を持ち、自国文化と対照しながら、ものごとを考えることができる。

### （習得すべき能力の具体的な目標）

#### 〈環境資源学専攻〉

広い意味でのコミュニケーションの道具としての英語の実用的側面を重視し、基本的な英語のスキル及び科学英語を勉強するための基盤を養う。

#### 〈居住環境学専攻〉

海外の建築文化や技術に興味のある学生が4技能をバランスよく修得し、個々の卒業後のキャリアにおいて、必要とされるレベルに応じた能力を身につける。

#### 〈食健康環境学専攻〉

広い意味でのコミュニケーションの道具としての英語の実用的側面を重視し、基本的な英語のスキル及び科学英語を勉強するための基盤を養う。

上記の目標を達成するために、英語については、以下の必修科目と選択科目が設けられています。

### （必修科目）

#### 〈3専攻共通〉

科目名	開講時期	授業概要
Basic English I Basic English II	1年次前期 1年次後期	基本的な語彙を習得するとともに、話す、聴く、読む、書く能力を含む英語によるコミュニケーション能力を養成します。週に2コマ開講されるこの授業では、学生が主体となり積極的に英語を使うことを求めます。また、学習効果を上げるために、授業の予習や復習となる課題を課します。
Basic English III Basic English IV	2年次前期 2年次後期	インターネットを通して得られる英語の教材を多く使用し、Basic English IおよびIIで学習した内容をさらに深める授業を行います。週1コマ開催されるこの授業では、インターネットから英語の情報を得て、それを利用するために必要な基本的技術を修得します。また、学習効果を上げるために、授業の予習や復習となる課題を課します。

## (選択科目)

環境共生学部では、必修科目のBasic English I～IVで学ぶ基礎的なスキルに加え、英語の技能をさらに発展させるために、2年次の選択科目として「Intermediate English I」および「Intermediate English II」を開講しています。

環境資源学専攻および食健康環境学専攻では必修科目Basic English I～IV（合計6単位）に加えて、選択科目よりIntermediate English I、IIを含めた2単位以上を修得する必要があります。

〈環境共生学部のみ〉

科目名	開講時期	授業概要
Intermediate English I Intermediate English II	2年次前期 2年次後期	英文を読む力と書く力を養成します。そのために、読む速度を速め、語彙を増やし、読んだ内容を評価してまとめ、考察する能力を高めるための訓練を行います。また、学習効果を上げるために、授業の予習や復習となる課題を課します。

上記科目に加え、全学共通の「選択科目」が多数開講されています。さらに英語を用いた高度なコミュニケーション能力を身につけたい、あるいはビジネス、読解能力、プレゼンテーション等の特定のスキルについて力をつけたい学生を対象とした科目として1年次から履修可能な次の科目が開講されています。「Global Languages I、II」は留学等で外国の大学で取得した単位を本学の単位として読み替えるための科目です。「Global Languages I、II」については留学前の相談が必要です。

<ul style="list-style-type: none"> <li>• Advanced English I、II</li> <li>• English for Global Business I～IV</li> <li>• Selected Reading in English</li> <li>• Global Languages I、II（読み替え科目）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• English for Studying Abroad</li> <li>• Language &amp; Culture I、II</li> <li>• Intensive English（集中講義）</li> </ul>
---	---

## 【各種検定試験について】

本人の希望によりTOEIC®、TOEFL®、実用英語技能検定（英検）、IELTSのスコアあるいは級による単位認定の申請が行われた場合には、以下の基準により単位認定します。（ただし、GPAの算定対象にはなりません。）

なお、後学期試験前後に申請期間を設けますので、掲示等に注意してください。

単位認定の対象となる科目	TOEIC®による取得点数	TOEFL®による取得点数※1	実用英語技能検定における合格級	IELTSによる取得点数	修得できる単位数※2	評価
• Basic English I	645点以上	68点(520点)以上	準1級	5.0以上	2単位	秀
• Basic English II	730点以上	79点(550点)以上		6.0以上	4単位	秀
• Basic English III			800点以上	90点(577点)以上	1級	6.5以上
• Basic English IV						

※1 TOEFL®のスコアの括弧内はITPテストによる取得点数

※2 上記の検定試験等の外部試験の対応する取得点数、合格級を得た場合に習得できる単位数を示す

## 〈初修外国語〉

初修外国語を履修する場合、環境資源学専攻及び食健康環境学専攻では、異文化に対する興味や関心を持ち、理解を深めることを目指します。居住環境学専攻では、建築ならびに都市・地域計画の学問領域において、世界の様々な文化や歴史、風土、建物、街の成り立ちの関連を理解することが重要であり、初修外国語の学習を通じた世界的視野を育成することを目指します。

### （全学的目標）

週1回90分の授業で、当該外国語を理解する最低限の初級文法と語彙を習得し、基本的表現を発信する能力を修得する。併せて異文化に対する理解を深める。

### （修得すべき能力の具体的な目標）

#### 〈3専攻共通〉

当該外国語を理解する最低限の初級文法と語彙、基本的表現を発信する能力を修得し、異文化に対する理解能力を高めることを目標とする。

初修外国語科目として、ドイツ語、フランス語、中国語及び韓国語が開設されています。各言語について、1年次に、週1コマコースと週2コマコースが開講されています。週1コマコース「入門AⅠ、AⅡ」（初級）では、前・後学期とも週1回の授業で1年間かけて初級レベルを学習します。また、より集中的に学習する週2コマコースも開講されており、環境資源学専攻及び居住環境学専攻の希望者は履修することができます。このコースでは、1年次前学期の「入門B」（初級、週2回）で初級レベルを学習し、1年次後学期「基礎」（中級、週2回）では中級レベルを学習します。さらに、2年次には「発展Ⅰ・Ⅱ」（上級、週1回）が開講されています。「発展Ⅰ・Ⅱ」は「基礎」（中級）レベルを学習し終えていることを前提とします。各学部・学科・専攻によって卒業要件単位が異なるので注意してください。







## 2 専門科目群について

環境共生にかかわる諸問題の多様化に対応しうる総合性と専門性を涵養し、問題を解決するための専門的理論と技術を修得するため専門科目群を配置しています。

### (1) 学科共通科目

まず、環境共生にかかわる諸問題を総合的に捉え、環境共生の理念を理解するために、学科共通の科目として配置しています。合計11単位はすべて必修です。

#### ①「導入科目」

環境共生にかかわる諸問題の全体像を認識し、各領域の位置づけを理解するために、導入科目を置いています。まず、「環境共生論」を配置し、その上で環境資源学、居住環境学及び食健康環境学領域から、入門的科目（「現代生活と環境問題」「居住環境を創る」「食と環境」）を配置しています。併せて実証的教育の導入として「フィールドワーク」を配置しています。

#### ②「情報処理実習」

各専攻における専門知識の修得に必要な情報処理技術を修得します。

#### ③「環境共生総合演習」

3年前学期までに修得した知識と経験の上に立って、改めて環境共生にかかわる諸問題を考え直し、これらの問題に自主的に取り組む科目である「環境共生総合演習」を必修科目として配置しています。

### (2) 専攻専門科目

「導入科目」で得られる知識を具体的に各専門領域で展開し専門性を養います。専門的知識と技術を修得する科目として各「専攻専門科目」を配置しています。

「基礎科目」、「展開科目」及び「卒業研究」から合計96単位を卒業要件としています。

なお、他専攻の「専攻専門科目」についても、20単位を上限として卒業要件単位数に含めることができますが、他学部科目の修得単位と他専攻科目の修得単位の両方を卒業要件単位数に含める場合は、20単位が限度となります。

### 3 環境資源学専攻の教育課程紹介

環境共生にかかわる諸問題を科学的に解明し対処するための基礎的な自然科学の知識と理解力を養成し、併せて、生態系の仕組みを理解し、人間活動が環境資源に及ぼす影響を調査、解析、評価する能力を育成します。また、環境資源の保全と適正利用による、持続可能な生物資源の生産技術並びに社会発展のための方策について教育します。そのために必要な基礎及び展開科目を設けています。

#### (1) 「基礎科目」

基礎的な自然科学の知識と理解力を養成するために、必要な理科一般（物理学・化学・生物学・地学）、数学、統計学及び情報処理を含む科目を配置しています。

#### (2) 「展開科目」

本専攻の教育目的を達成するために必要な生態、生物資源、物質環境、環境計画に関して調査・分析能力を育成するための科目を配置します。

特に、本専攻の特徴とする環境評価を、沿岸域環境アセスメント実習、森林環境アセスメント実習、水産環境アセスメント実習及び植物生産環境アセスメント実習の4種のアセスメント実習で実証的に体験します。

##### ① 生態関係科目

海洋及び森林の生態系の構造と機能、保全と利用のための方策を学びます。

##### ② 生物資源関係科目

海洋及び陸上で生産される生物資源の特性と機能、栽培・増殖法、生産環境、生産物の利用法について学びます。

##### ③ 物質環境関係科目

環境における物質及びその移動、循環に関する化学的、物理的な知識と環境への影響を評価する手法を学びます。

##### ④ 環境計画関係科目

環境資源を保全しつつ、恒久的に利用し、持続可能な社会発展を遂げるために必要な計画論、法規、政策、制度について学びます。

#### (3) 「関連科目」

本専攻の教育に関連が深い教育職員免許に関する科目を配置しています。なお、「関連科目」は卒業要件単位数に含めることはできません。

履修科目年次配当表（環境資源学専攻）〔令和5年度（2023年度）版〕

単位数○印は必修科目、( )印は選択科目(基礎科目)においては選択必修科目の単位数を表します。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通科目群	必修科目及び選択必修科目を含め29単位以上を修得すること。									
学	環境共生論 ②	フィールドワーク ①								29
科	現代生活と環境問題 ②									
共	居住環境を創る ②									9
通	食と環境 ②									
科目										2
	情報処理実習A ①									
基礎科目	生物学I (2)	生物学II (2)	物理学実験 (1)	統計学演習 (1)	Science English I (1)	Science English II (2)	環境共生総合演習 ①			
	基礎化学 (2)	生物学実験A (1)	統計学 (2)	統計学 (2)	地学I (2)	地学II (2)				
	物理学I (2)	有機化学 (2)	環境情報処理実習 (1)		地学実験I (1)	地学実験II (1)				
	数学I (2)	化学実験A (1)			応用情報処理実習 (1)					
	物理学II (2)	数学II (2)								
専門科目群	基礎科目中の生物学I・II、基礎化学、有機化学、物理学I・II、数学I・II、統計学から8科目16単位以上を、生物学実験A、化学実験A、物理学実験、地学実験I・II、統計学演習、環境情報処理実習及び応用情報処理実習から6科目6単位以上を修得すること。また、Science English I・IIの単位を修得すること。									
生態			沿岸環境アセスメント実習 ①	森林生態学 ②	沿岸環境保全論 ②	沿岸環境保全論 ②				
				森林環境アセスメント実習 ①	森林資源学 ②					
生物資源				海洋生態学 ②						88
				海藻学 (2)						
				プランクトン学 (2)						
物質環境			食資源開発学 (2)	作物生産学 ②	魚類環境生理学 (2)					
			植物食資源学 ②	海洋微生物学 (2)	植物生産環境アセスメント実習 ①					
			水産環境学 ②							
			水産環境アセスメント実習 ①							
物質環境			環境分析化学 (2)	環境分析化学実験I ①	水環境科学 ②	食品安全性学 (2)				
			高分子化学 (2)	高分子化学実験 ①	環境分析化学実験II ①	環境計量演習 (1)				
			生物濃縮論 ②	生物濃縮論 ②	環境素材学 ②	環境衛生科学 (2)				
			大気環境学実験 ①	大気環境学実験 ①	大気環境学 ②	大気環境学 (2)				
					エネルギー環境学 (2)					
					食品分析学 (2)					
環境計画			環境経済学 (2)	環境運用法規 (2)	地域景観計画学 (2)					
					農山村域計画学 (2)					
					都市計画 (2)					
関連科目					職業指導 (2)					8
卒業研究									卒業論文 ⑧	
合計										136

#### 4 居住環境学専攻の教育課程紹介

「環境共生」の視点から、住宅・建築・都市・農山村地域・自然に至る居住環境の全体を見据える実体験を通じた科学的認識能力を育成します。

その上で、地方文化に根ざし、地域資源を活用し、更には健康・福祉を重視した居住環境の改善・創造に寄与しうるデザイン、計画、調整、構築に関する確実な知識・技能的能力を習得することを目的としています。併せて、関連する社会科学的知識・素養及び生態に関する知識も教育します。そのために必要な基礎及び展開科目を設けています。

##### (1) 「基礎科目」

専攻全般にわたって必要な設計製図・デザイン実習、力学・環境調整と不可分の物理学・数学に関連する科目を配置しています。

##### (2) 「展開科目」

本専攻の教育目標に沿って、期待される成果が確実に得られるように、居住環境デザイン実習、居住環境調整工学実験、木質構造を含む居住空間構造・材料実験等、実習・実験を多く取り入れ、都市・地域計画、居住空間計画、環境調整・設備、構造・材料に関する科目を配置しています。更に、全体共通として、4つの専門分野に共通する科目、及び自然科学と社会科学に関する科目を配置しています。

###### ① 都市・地域計画関係科目

人間活動と自然とが直接に結びつく農山村域のありようを、環境共生の視点から学び、その持続及び地方都市のスケールと構成に着目し、環境負荷軽減型都市生活とその基盤形成に関する計画理論と技術を学びます。

###### ② 居住空間計画関係科目

地域の自然と文化に根ざした住空間生成の歴史と現状を学び、豊かな地域性と時代性のある住空間及び高齢者、身障者等の社会的弱者の生活・社会参加を保障し、地域福祉の視点に立つ居住環境の計画理論と技術を学びます。

###### ③ 環境調整・設備関係科目

環境への負荷軽減と健康をテーマとした居住環境調整と環境リスクマネジメント及び様々な居住空間における環境設備に関する知識とそれらのシステム構築に関する計画理論と技術を学びます。

###### ④ 構造・材料関係科目

循環システムを重視した地域資源の活用を視野に入れた居住空間の構築について、構造的な安全性、技法、空間造形に関する力学及び、そのための材料の選択、活用、構成の仕方に関する知識、理論及び技術を学びます。

# 履修科目年次配当表 (居住環境学専攻) [令和5年度 (2023年度) 版]

単位数○印は必修科目、( )印は選択科目(基礎科目)の単位数を表します。

区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		卒業に 必要な 単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通科目群	必修科目及び選択必修科目を含め29単位以上を修得すること。									
学 科 共 通 科 目	環境共生論	②	①							9
	現代生活と環境問題	②								
専 入 科 目	居住環境デザイン実習Ⅰ	②								2
	数学Ⅱ	②								
基 礎 科 目	数学Ⅰ	(2)								2
	物理学Ⅰ	(2)								
専 門 科 目 群	都市地域計画			比較都市文化論	(2)	都市計画	②	都市居住政策学	(2)	
	居住空間計画			住空間計画学	②	農村地域計画学	(2)	地域景観計画学	(2)	
展 開 科 目	建築史	②		インテリアデザイン論	(2)	インテリアデザイン実習Ⅱ	②	福祉住環境原論	②	
	建築環境工学Ⅰ	②		比較住文化論	(2)	木質デザイン論	②			
専 攻 専 門 科 目	環境調整設備			建築環境工学Ⅱ	②	環境設備システム学	②	居住環境調整工学実験	(1)	88
	構造・材料			環境設備学	②	環境設備システム学演習Ⅰ	(1)	環境調整工学	(2)	
専 攻 専 門 科 目	建築構法	②		居住空間材料学	②	鉄骨コンクリート構造学	②	鉄骨構造学	(2)	
	建築構造の基礎	②		不静定構造力学	②	居住空間構造・材料実験Ⅰ	(1)			
全 体 共 通				不静定構造力学演習Ⅰ	①	居住環境デザイン実習Ⅳ	②	居住環境デザイン実習Ⅵ	②	(2)
				居住環境デザイン実習Ⅲ	②	海洋生態学	(2)	環境防災・安全工学	(2)	
卒 業 論 文				木質材料活用論	(2)	CAD実習Ⅱ	(1)	建築施工学	②	⑧
				森林生態学	(2)	大気環境学	(2)	建築法規	②	
卒業研究				エネルギー環境学	(2)	地学Ⅰ	(2)	地学Ⅱ	(2)	8
合 計										136

注1 開設時(前学期、後学期)は変更されることがあります。

注2 環境共生学科の他専攻における専攻専門科目は、20単位を上限として卒業要件単位数に含めることが出来ますが、他学部科目の修得単位の他専攻科目の修得単位の両方を卒業要件単位数に含める場合は、20単位が限度となります。

## 5 食健康環境学専攻の教育課程紹介

「環境共生」の視点から、自然環境への負担を軽減し、地域の環境特性を反映した食と健康について、基本的知識と実践の方策を修得するため、まず、食と健康に関する基礎的な自然科学の知識と理解力を養成するとともに、食品の特性と人体の機構についても有機的に学びます。

その上で、食糧生産環境の現状と人間にとっての健全な環境についての知識を含めて、食資源の開発、食品の加工と衛生、栄養の科学、食や運動を通じた健康管理にかかわる理論と技術を学びます。そのために必要な基礎及び展開科目を設けています。

### (1) 「基礎科目」

食品、栄養、運動及び健康を学ぶための基礎となる化学と生物学に関連する科目並びに物理学、統計学を含む科目を配置しています。

### (2) 「展開科目」

本専攻の教育目標に沿って、展開科目の内容を理解し、期待される成果が確実に得られるように、食品バイオテクノロジー実験、食品加工学実験、栄養学実験、臨床栄養学実習をはじめとする実験実習を含む実証性を重視した食環境と健康環境に関する科目を配置しています。

なお、学外で予定している実習については、小学校・病院等の施設で行います。

#### ① 食環境関係科目

食をめぐる環境に関し、食品の物理・化学的性質と調理・加工・流通に伴う変化並びに食品の安全性を理解した上で、環境と共生できる食資源の開発・利用について学びます。

#### ② 健康環境関係科目

健康をめぐる環境に関し、食品機能・栄養科学、解剖・運動生理など、人体の構造・機能・生理を理解した上で、食や運動を通じた健康管理について学びます。

### (3) 「関連科目」

本専攻の教育に関連が深い教育職員免許に関する科目及び管理栄養士免許に関する科目を配置しています。なお、「関連科目」は卒業要件単位数に含めることはできません。



# 履修科目年次配当表（食健康環境学専攻）〔令和5年度（2023年度）版〕

単位数○印は必修科目、( )印は選択科目（基礎科目においては選択必修科目）の単位数を表します。

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通科目群	必修科目及び選択必修科目を含め29単位以上を修得すること。									
導入科目	② フィールドワーク ①									
学共 科通 科目	環境共生論 現代生活と環境問題 居住環境を創る 食と環境									29
基礎 科 目	(2) 生物学Ⅰ (2) 基礎化学 (1) 化学実験B (2) 物理学Ⅰ (2) 生命有機化学 (2) 生化学 (2) 有機化学	(2) 統計学 (1) 物理学実験	(1) 応用情報処理実習 (1) 生化学実験	(1) 統計学演習	(1) 環境共生総合演習 ①					2
	基礎科目中の選択必修科目から8単位以上を修得すること。									
食 環 境	(2) 調理学実習Ⅰ (2) 食品学総論	(2) 食品化学 (2) 食資源開発学 (1) 調理学実習Ⅱ (2) 食文化論 (2) 植物食資源学	(2) 環境微生物学 (2) 食品分析学 (1) 食品衛生学実験 (2) 食品分析学実験 (2) 食品製造学 (2) 作物生産学 (2) 食品衛生学 (2) 食品加工学	(2) 環境微生物学 (2) 食品学各論 (1) 食品加工学実験 (2) 食品製造学 (2) 作物生産学 (2) 食品衛生学 (2) 食品加工学	(2) 食品バイオテクノロジー (2) 食品バイオテクノロジー実験 (1) 食品保存学 (2) 食品分析学					88
展 開 科 目	(2) 解剖生理学 (2) 栄養教育論	(2) 環境生理学実習 (1) 環境生理学概論 (2) 栄養学総論 (1) 栄養学実験 (2) 生体防衛学 (1) 栄養教育論実習 (2) 栄養生化学	(2) 健康管理学 (1) 栄養運動生理学 (2) 栄養機能性学 (2) 給食経営管理Ⅱ (2) 給食管理実習Ⅰ (2) 給食経営管理臨床実習 (2) 疾病論 (2) 公衆栄養学 (2) 臨床栄養治療学 (1) 臨床栄養学実習 (1) 臨床治療食実習 (2) 臨床栄養学臨床実習	(2) 健康管理学 (1) 栄養運動生理学 (2) 栄養機能性学 (2) 給食経営管理Ⅱ (2) 給食管理実習Ⅰ (2) 給食経営管理臨床実習 (2) 疾病論 (2) 公衆栄養学 (2) 臨床栄養治療学 (1) 臨床栄養学実習 (1) 臨床治療食実習 (2) 臨床栄養学臨床実習	(2) 生活習慣病予防学 (2) 栄養運動生理学実習 (2) ライフステージ栄養学演習 (2) 給食管理実習Ⅱ (1) 栄養情報管理学 (2) 臨床代謝栄養学 (2) 公衆衛生学 (2) 地域栄養アセスメント実習 (2) 公衆栄養学 (2) 臨床栄養治療学 (1) 臨床栄養学実習 (1) 臨床治療食実習 (2) 臨床栄養学臨床実習	(1) 公衆栄養学臨床実習 (2) 臨床外科栄養学 (4) 実践栄養学総合演習				
健 康 環 境										
関 連 科 目	(2) 生活経営学概論 (2) 被服学概論	(2) 家族関係論 (2) 被服構成学実習 (2) ※通年で2単位です。	(2) 学校教育論	(2) 学校教育論	(2) 学校教育論	(2) 学校教育論	(2) 学校教育論	(2) 学校教育論	(2) 管理栄養士特別演習 (2)	
卒 業 研 究										8
合 計										136

注1 開講時（前学期・後学期）は変更されることがあります。

注2 環境共生学科の他専攻における専攻専門科目は、20単位を上限として卒業要件単位数に含めることが出来ませんが、他学部科目の修得単位と他専攻科目の修得単位に含める場合は、20単位が限度となります。

注3 専攻専門科目のうち、関連科目は卒業要件単位数に含みません。

## 6 進級の要件

第2年次末までに共通科目群のプレゼミナール及びキャリア形成論の合計2単位並びに学科共通科目の導入科目9単位のうち7単位以上及び情報処理実習A、情報処理実習Bまたは情報処理実習Cのいずれかを含めて合計65単位以上を修得した学生は、第3年次に開設される授業科目を履修することができます。

## 7 卒業論文履修要件

卒業予定年次の前年度末までに共通科目群及び専門科目群から学科共通科目11単位（環境共生総合演習1単位を含む）を含めて合計110単位以上を修得した学生は、卒業論文を履修することができます。

## 8 卒業の要件

33-34頁を参照してください。

## 9 他学部等開講科目の履修について

他学部開講科目（以下「他学部科目」といいます。）の履修願を教務入試課に提出することにより文学部と総合管理学部の開講科目を履修することができます。ただし、原則として演習・実習及び実験は対象外とします。

また、修得した単位は10単位を上限とし専門科目群の卒業要件単位数に含めることができます。ただし、教職関連科目群は、卒業要件単位数に含めることはできません。

対象となる科目については、各学部の履修の手引等を参照してください。

なお、環境共生学科内の他専攻で開設されている専攻専門科目（以下「他専攻科目」といいます。）は、33-34頁に記載のとおり20単位を上限として卒業要件単位数に含めることができますが、他学部科目の修得単位と他専攻科目の修得単位の両方を卒業要件単位数に含める場合は、20単位が限度となりますので注意してください。

## 10 外国人留学生の特別科目に関する履修の特例について

- (1) 外国人留学生は母語を外国語として履修することはできません。履修言語が母語ではなく公用語である場合、その言語の履修上の扱いは学部がその都度決めます。
- (2) 英語を母語としない留学生は、環境資源学専攻および食健康環境学専攻では英語8単位を必修、居住環境学専攻では英語6単位を必修とします。また、日本語を初修外国語とすることができ、必修以外の単位に振り替えることもできます。
- (3) 英語を母語とする留学生は、外国語8単位のうち日本語6単位を必修とします。必修以外の2単位は日本語及び初修外国語から修得してください。
- (4) 外国人留学生が修得した日本事情科目の単位のうち4単位までを共通科目群の「その他の単位」※1に振り替えることができます。

※1 「その他の単位」については、卒業要件のページ（33-34頁）を参照してください。

〈卒業要件単位数〉〔環境資源学専攻及び食健康環境学専攻〕

4年以上在学し、次の単位数以上を修得しなければいけません。

区分	分類	分野		配当単位数	卒業要件単位数				
					必修	選択必修			
共通科目群 a	基盤科目	外国語	Basic English I～IV	b	6	6			
			b以外の英語科目	c	18		2		
			初修外国語	d	32				
		健康スポーツ科学	e	4	2	1			
		情報処理とデータサイエンス	f	6	6				
		キャリアデザイン	g	2	2				
		地域理解とリーダーシップ	もやいすと(地域)ジュニア育成	h	4		2		
			もやいすと(防災)ジュニア育成						
			新熊本学	i	8		2		
		hとi以外の科目	j	9					
	教養科目	人間と文化	k	22		2			
		自然と環境	l	18		2			
		社会と世界	m	18		2			
	計(A)				143	16	13		
					29				
専門科目群	学科共通科目	導入科目		9					
		環境共生総合演習		1					
		情報処理実習A、情報処理実習C		1					
		計(C)		11					
	専攻専門科目			環境資源学専攻		食健康環境学専攻			
				配当単位数	卒業要件単位数		配当単位数	卒業要件単位数	
					必修	選択必修		必修	選択必修
		基礎科目		34	4	22	24	4	8
		展開科目		65	30		108		
	卒業研究		8	8		8	8		
計(D)		107	96以上 上記64単位の他に 32単位以上修得する。		140	96以上 上記20単位の他に 76単位以上修得する。			
計(B) = (C) + (D)		118	107以上		151	107以上			
計(A) + (B)		261	136以上		294	136以上			

- (注1) a 必修科目16単位、指定された選択必修科目13単位の合計29単位以上を修得すること。  
 b 英語は「Basic English I」から「Basic English IV」の4科目6単位は必修とする。  
 c, d b以外の外国語から「Intermediate English I、II」を含めた2単位以上を選択必修とする。  
 e 「健康の科学」は必修とし、「生涯スポーツ実習I」「生涯スポーツ実習II」から1科目1単位を選択必修とする。  
 f 「情報処理入門」「データサイエンス入門」「データサイエンス演習」は必修とする。  
 g 「プレゼミナール」「キャリア形成論」は必修とする。  
 h 「もやいすと(地域)ジュニア育成」「もやいすと(防災)ジュニア育成」から1科目2単位を選択必修とする。  
 i 新熊本学は4科目8単位から1科目2単位を選択必修とする。  
 k, l, m 各分野からそれぞれ1科目2単位以上を選択必修とする。
- (注2) 『専門科目群』は、他学部開講科目・他専攻専門科目を卒業要件単位数に含めることができる。詳細は、32頁「9他学部等開講科目の履修について」を参照すること。

〈卒業要件単位数〉〔居住環境学専攻〕

4年以上在学し、次の単位数以上を修得しなければいけません。

区分	分類	分野		配当 単位数	卒業要件単位数		
					必修	選択必修	
共通科目群 a	基盤科目	外国語	Basic English I～IV	b	6	6	2
			b以外の英語科目	c	18		
			初修外国語	d	32		
		健康スポーツ科学	e	4	2	1	
		情報処理とデータサイエンス	f	6	6		
		キャリアデザイン	g	2	2		
		地域理解と リーダーシップ	もやいすと（地域）ジュニア育成	h	4		2
			もやいすと（防災）ジュニア育成				
			新熊本学	i	8		2
			hとi以外の科目	j	9		
	教養科目	人間と文化	k	22		2	
		自然と環境	l	18		2	
		社会と世界	m	18		2	
		計（A）		143	16	13	
					29		
専攻 専攻専門科目群	学科 共通科目	導入科目			9		
		環境共生総合演習			1		
		情報処理実習B			1		
		計（C）			11		
	専攻 専門科目			配当 単位数	卒業要件単位数		
		基礎科目		16	7		
		展開科目		96	47		
		卒業研究		8	8		
		計（D）		120	96以上 上記62単位の他に 34単位以上修得する。		
	計（B）=（C）+（D）		131	107以上			
計（A）+（B）		267	136以上				

- (注1) a 必修科目16単位、指定された選択必修科目13単位の合計29単位以上を修得すること。  
 b 英語は「Basic English I」から「Basic English IV」の4科目6単位は必修とする。  
 c, d b以外の外国語から2単位以上を選択必修とする。  
 e 「健康の科学」は必修とし、「生涯スポーツ実習Ⅰ」「生涯スポーツ実習Ⅱ」から1科目1単位を選択必修とする。  
 f 「情報処理入門」「データサイエンス入門」「データサイエンス演習」は必修とする。  
 g 「プレゼミナール」「キャリア形成論」は必修とする。  
 h 「もやいすと（地域）ジュニア育成」「もやいすと（防災）ジュニア育成」から1科目2単位を選択必修とする。  
 i 新熊本学は4科目8単位から1科目2単位を選択必修とする。  
 k, l, m 各分野からそれぞれ1科目2単位以上を選択必修とする。
- (注2) 『専門科目群』は、他学部開講科目・他専攻専門科目を卒業要件単位数に含めることができる。詳細は、32頁「9他学部等開講科目の履修について」を参照すること。

# 11 授業一覧

## 共通科目群 (3専攻共通)

時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者 (非常勤)	○は 必修 単位数	配当年次	週コマ数	備考
◆基盤科目							
◇外国語							
11120121	Basic English I a (資)	教職	(Mortenson)・Morrow	②	1年前期	2	
11120122	Basic English I b (居)	教職	Morrow	②	1年前期	2	
11120123	Basic English I c (居)	教職	(Cairns・Gilbert)	②	1年前期	2	
11120124	Basic English I d (食)	教職	(Cairns・Ostman)	②	1年前期	2	
11120125	Basic English I e (食)	教職	Morrow・(Cairns)	②	1年前期	2	
11120221	Basic English II a (資)	教職	(Mortenson・Cairns)	②	1年後期	2	
11120222	Basic English II b (居)	教職	(Gilbert・Ostman)	②	1年後期	2	
11120223	Basic English II c (居)	教職	Morrow	②	1年後期	2	
11120224	Basic English II d (食)	教職	(Gilbert・Cairns)	②	1年後期	2	
11120225	Basic English II e (食)	教職	(Cairns)・Morrow	②	1年後期	2	
11120321	Basic English III (資)		(Armstrong)	①	2年前期	1	
11120322	Basic English III (居)		(Gilbert)	①	2年前期	1	
11120323	Basic English III (食)		(Cairns)	①	2年前期	1	
11120421	Basic English IV (資)		(Ostman)	①	2年後期	1	
11120422	Basic English IV (居)		Morrow	①	2年後期	1	
11120423	Basic English IV (食)		(Cairns)	①	2年後期	1	
11160501	Intermediate English I a (資・居)		(Cairns)	1	2年前期	1	
11160502	Intermediate English I b (資・居)		(Jenkinson)	1	2年前期	1	
11160503	Intermediate English I c (食)		(Mortenson)	1	2年前期	1	
11160504	Intermediate English I d (食)		(Gilbert)	1	2年前期	1	
11160601	Intermediate English II a (資・居)		(Jenkinson)	1	2年後期	1	
11160602	Intermediate English II b (資・居)		(Cairns)	1	2年後期	1	
11160603	Intermediate English II c (食)		(Gilbert)	1	2年後期	1	
11160604	Intermediate English II d (食)		(Gilbert)	1	2年後期	1	
11150101	Advanced English I		(有働(牧))	1	1～4年前期	1	集中講義★ もやいすとグローバル育成プログラム参加学生のみが履修できる科目。もやいすとグローバル育成プログラムの詳細や参加方法は各種お知らせを確認すること。
11150201	Advanced English II		(岡崎(紀))	1	1～4年後期	1	
11150301	English for Studying Abroad		(岡崎(紀))	1	1～4年前期	1	
11150401	English for Global Business I a		(岡崎(利))	1	1～4年前期	1	
11150402	English for Global Business I b		(岡崎(紀))	1	1～4年前期	1	
11150501	English for Global Business II a		(岡崎(紀))	1	1～4年後期	1	
11150502	English for Global Business II b		(岡崎(利))	1	1～4年後期	1	
11150601	English for Global Business III		(岡崎(紀))	1	1～4年前期	1	
11150701	English for Global Business IV		(岡崎(紀))	1	1～4年後期	1	
11151001	Language and Culture I		原	1	1～4年前期	1	
11151101	Language and Culture II		(Mortenson)	1	1～4年後期	1	
11151201	Selected Readings in English		(岡崎(紀))	1	1～4年後期	1	
11151301	Intensive English		Morrow・他	2	1～4年後期		
11151401	Moyaist Global Entry Training		Lavin・田中(和)	1	1年後期	1	
11151501	Moyaist Global Training I		(Tournat)	1	2年前期	1	
11151601	Moyaist Global Training II		(Tournat)	1	2年後期	1	
11151701	Moyaist Global Training III		Lavin	1	3年前期	1	
11151801	Global Languages I			1	1～4年次		
11151901	Global Languages II			1	1～4年次		

(注) 集中講義のうち、★はキャップ制の除外科目となる恒久的な集中講義です。

## 共通科目群(3専攻共通)

時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者 (非常勤)	○は 単位数 必修	配当年次	週コマ数	備考
11136101	フランス語入門A I a		(Ferrero)	1	1年前期	1	
11136102	フランス語入門A I b		(Sebban)	1	1年前期	1	
11136201	フランス語入門A II a		(Ferrero)	1	1年後期	1	
11136202	フランス語入門A II b		(Sebban)	1	1年後期	1	
11136301	フランス語入門B		(木下)	2	1年前期	2	
11136401	フランス語基礎		(木下)	2	1年後期	2	
11136501	フランス語発展 I		(木下)	1	2年前期	1	
11136601	フランス語発展 II		(木下)	1	2年後期	1	
11137101	ドイツ語入門A I a		(岩佐)	1	1年前期	1	
11137102	ドイツ語入門A I b		(吉田(李))	1	1年前期	1	
11137201	ドイツ語入門A II a		(岩佐)	1	1年後期	1	
11137202	ドイツ語入門A II b		(吉田(李))	1	1年後期	1	
11137301	ドイツ語入門B		(Bauer)	2	1年前期	2	
11137401	ドイツ語基礎		(Bauer)	2	1年後期	2	
11137501	ドイツ語発展 I		(吉田(李))	1	2年前期	1	
11137601	ドイツ語発展 II		(吉田(李))	1	2年後期	1	
11138101	中国語入門A I a		(趙)	1	1年前期	1	
11138102	中国語入門A I b		(趙)	1	1年前期	1	
11138103	中国語入門A I c		(馮)	1	1年前期	1	
11138201	中国語入門A II a		(趙)	1	1年後期	1	
11138202	中国語入門A II b		(趙)	1	1年後期	1	
11138203	中国語入門A II c		(馮)	1	1年後期	1	
11138301	中国語入門B a		山田	2	1年前期	2	
11138302	中国語入門B b		(岡村)	2	1年前期	2	
11138401	中国語基礎 a		山田	2	1年後期	2	
11138402	中国語基礎 b		(岡村)	2	1年後期	2	
11138501	中国語発展 I a		山田	1	2年前期	1	
11138502	中国語発展 I b		(岡村)	1	2年前期	1	
11138601	中国語発展 II a		山田	1	2年後期	1	
11138602	中国語発展 II b		(岡村)	1	2年後期	1	
11139101	韓国語入門A I a		(金)	1	1年前期	1	
11139102	韓国語入門A I b		(矢野)	1	1年前期	1	
11139201	韓国語入門A II a		(金)	1	1年後期	1	
11139202	韓国語入門A II b		(矢野)	1	1年後期	1	
11139301	韓国語入門B a		(辛)	2	1年前期	2	
11139302	韓国語入門B b		(田)	2	1年前期	2	
11139401	韓国語基礎 a		(辛)	2	1年後期	2	
11139402	韓国語基礎 b		(田)	2	1年後期	2	
11139501	韓国語発展 I		(田)	1	2年前期	1	
11139601	韓国語発展 II		(田)	1	2年後期	1	

共通科目群 (3専攻共通)

時間割コード	授 業 科 目 名	教職科目	担当者 (非常勤)	○単位 数は 必修	配当年次	週 コマ数	備 考	
◇健康スポーツ科学								
11510401	健康の科学 (文・環)	教職	青木	②	1年前期	1		
11510201	生涯スポーツ実習Ⅰ (3限クラス)	教職	青木・他	1	1年前期	1		
11510202	生涯スポーツ実習Ⅰ (4限クラス)	教職	青木・他	1	1年前期	1		
11510301	生涯スポーツ実習Ⅱ (3限クラス)	教職	青木・他	1	1年後期	1		
11510302	生涯スポーツ実習Ⅱ (4限クラス)	教職	青木・他	1	1年後期	1		
◇情報処理								
13100141	情報処理入門 (資)	教職	(川田)	②	1年前期	1		
13100142	情報処理入門 (居)	教職	(藤本)	②	1年前期	1		
13100143	情報処理入門 (食)	教職	(西嶋)	②	1年前期	1		
13101041	データサイエンス入門 (環境)		松田	②	1年後期	1		
13101141	データサイエンス演習 (環境)		松田	②	2年前期	1		
◇キャリアデザイン								
13310141	プレゼминаール		担当教員	①	1年前期	1	キャリア体験演習は自由科目とし、その単位は卒業要件には含めない。履修登録は成績入力の際、教員が行うため、学生の履修登録は不要(詳細は掲示する)。単位取得は配当年次の次学期となる。	
48602141	キャリア形成論		担当教員	①	1年前期	1		
48604101	キャリア体験演習1		担当教員	1	1年前期	1		
48604201	キャリア体験演習2		担当教員	1	1年後期	1		
48604301	キャリア体験演習3		担当教員	1	2年前期	1		
48604401	キャリア体験演習4		担当教員	1	2年後期	1		
48604501	キャリア体験演習5		担当教員	1	3年前期	1		
48604601	キャリア体験演習6		担当教員	1	3年後期	1		
48604701	キャリア体験演習7		担当教員	1	4年前期	1		
◇地域理解とリーダーシップ								
12800101	もやいすと (地域) ジュニア育成		西本・津曲	2	1～4年後期		} いずれか1科目 選択必修	
12800201	もやいすと (防災) ジュニア育成		西本・柴田	2	1～4年後期	1		
12800701	もやいすとシニア育成		西本・柴田	2	2～4年後期			
12800401	減災リテラシー入門		澤田	2	1～4年前期	1	} 集中講義	
12312401	新熊本学：ことば、表現、歴史		鈴木・他	2	1～4年後期	1		
12711501	新熊本学：熊本の生活と環境		松添・他	2	1～4年後期	1		
12800501	新熊本学：地域のビジネスリーダーに学ぶ		望月	2	1～4年前期	1		
12800601	新熊本学：地域社会と協働		澤田・他	2	1～4年後期	1		
12800801	Kumamoto Studies		Lavin・遠藤	2	2年前期	1		
12800901	もやいすとシニア(グローバル)育成		Lavin	2	2年後期	1		
48603001	グローバル実践活動		Lavin・遠藤	1	3年通年	1		
} もやいすとグローバル育成プログラム参加学生のみが履修できる科目。もやいすとグローバル育成プログラムの詳細や参加方法は各種お知らせを確認すること。								

共通科目群 (3専攻共通)

時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は必修 単位数	配当年次	週コマ数	備考
<b>◆教養科目</b>							
◇人間と文化							
12310101	哲学の基礎		(立花)	2	1～4年前期	1	
12320101	科学の思想		(立花)	2	1～4年後期	1	
12501101	Performing Arts of Japan (日本芸能論)		羽鳥	2	1～4年前期	1	
12501001	日本の文化		羽鳥	2	1～4年後期	1	
12310401	人間と宗教		(慶田)	2	1～4年前期	1	
12310701	心理学入門 a		(定田)	2	1～4年前期	1	
12310702	心理学入門 b		石井	2	1～4年前期	1	
12311801	人権と文化	教職	難波	2	1～4年前期	1	
12312201	現代世界と歴史		大島	2	1～4年後期	1	
12311201	近代日本の歩み		大島	2	1～4年前期	1	
12311401	現代の文学		難波	2	1～4年前期	1	
12311701	人間と芸術		(永田)	2	1～4年後期	1	
12320201	西洋文化圏の理解		(内田)	2	1～4年前期	1	
12500901	東アジア文化圏の理解		(有働(彰))	2	1～4年後期	1	
12312501	Global Studies I			2	1～4年次		単位読み替え科目
◇自然と環境							
12710301	環境と生物圏		斎藤	2	1～4年後期	1	
12710501	エネルギーと社会		(古江)	2	1～4年前期	1	※九州電力協力講座
12710801	海の生物資源		一宮	2	1～4年後期	1	
12710901	人間と植物生産		松添	2	1～4年前期	1	
12711001	暮らしの中の化学技術		石橋康	2	1～4年前期	1	
12711101	環境と生きる		小林	2	1～4年後期	1	
12720101	住まいと地域環境	教職	柴田・他	2	1～4年前期	1	家庭科
12711301	食と健康		岸・他	2	1～4年後期	1	
12711601	持続可能な開発と教育	教職	石村	2	1～4年後期	1	
12717101	Global Studies II			2	1～4年次		単位読み替え科目
◇社会と世界							
12500101	現代の国際関係		高埜	2	1～4年前期	1	
12500201	世界の経済		松尾	2	1～4年前期	1	
12910101	国際協力論		(木下)	2	1～4年前期	1	
12900101	生活と憲法	教職	佐藤	2	1～4年後期	1	
12900201	現代社会と政治		(松岡)	2	1～4年前期	1	
12901601	現代社会と法	教職	(岡本)	2	1～4年前期	1	
12900701	情報と社会		(谷口)	2	1～4年前期	1	※NTT西日本協力講座
12900801	マスメディア論		(今村)	2	1～4年後期	1	※熊本日日新聞社協力講座
12901001	現代社会と企業		(林)	2	1～4年後期	1	
12901701	Global Studies III			2	1～4年次		単位読み替え科目

外国人留学生の特別科目 (外国人留学生に対してのみ開講)

時間割コード	授業科目名	担当者(非常勤)	○は必修 単位数	配当年次	週コマ数	備考
(日本語)						
休講	日本語基礎 A-1	(大庭)	2	1～2年前期	2	本年度休講
休講	日本語発展 A-1	萱嶋	2	1～2年後期	2	本年度休講
休講	日本語基礎 A-2	(大庭)	2	1～2年前期	2	本年度休講
休講	日本語発展 A-2	(島本)	2	1～2年後期	2	本年度休講
11200301	日本語基礎 B-1		2	1～2年前期	2	
11200302	日本語発展 B-1		2	1～2年後期	2	
11200401	日本語基礎 B-2		2	1～2年前期	2	
11200402	日本語発展 B-2		2	1～2年後期	2	
(日本事情に関する科目)						
休講	日本事情 I	文学部教員	2	1～4年前期	1	本年度休講
12200201	日本事情 II	共通教育センター教員	2	1～4年後期	1	
休講	日本事情 III	総合管理学部教員	2	1～4年後期	1	本年度休講
12200401	日本事情 IV	環境共生学部教員	2	1～4年後期	1	



専門科目群 環境資源学専攻

	時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者 (非常勤)	○は 単位 必修 数	配当年次	週コマ数	備考	
学科共通科目	導入科目	34101001	環境共生論		石橋・他	②	1年前期	1	
		34109001	現代生活と環境問題	農	阿草・他	②	1年前期	1	
		34111001	居住環境を創る	家	北原・他	②	1年前期	1	
		34107001	食と環境	農	阿南・他	②	1年前期	1	
		34108001	フィールドワーク		学部全教員	①	1年後期		集中講義★
		34181001	環境共生総合演習		学部全教員	①	3年後期	1	
		13100541	情報処理実習A	家	(山田)	①	1年後期	2	
専攻専門科目	基礎科目	34301501	生物学Ⅰ	理	小森田	2	1年前期	1	選択必修A
		34302501	生物学Ⅱ	理	(高橋)	2	1年後期	1	選択必修A
		34303501	生物学実験A	理	一宮	1	1年後期	2	選択必修B
		34304501	基礎化学	理	小林	2	1年前期	1	選択必修A
		34305501	有機化学	理	阿草	2	1年後期	1	選択必修A
		34307501	化学実験A	理	小林	1	1年後期	2	選択必修B
		34308301	物理学Ⅰ	理	張	2	1年前期	1	選択必修A
		34309301	物理学Ⅱ	理	張	2	1年後期	1	選択必修A
		34310101	物理学実験	理	張	1	2年前期	2	選択必修B
		34311101	地学Ⅰ	理	(小島)	2	3年前期	1	選択必修A
		34312101	地学Ⅱ	理	(小島)	2	3年後期	1	選択必修A
		34313101	地学実験Ⅰ	理	(田中源)	1	3年前期		選択必修B 集中講義★
		34314101	地学実験Ⅱ	理	(田中源)	1	3年後期		選択必修B 集中講義★
		34315301	数学Ⅰ		(犬塚)	2	1年前期	1	選択必修A
		34316301	数学Ⅱ		(犬塚)	2	1年後期	1	選択必修A
		34317501	統計学		(中嶋)	2	2年前期	1	選択必修A
		34318501	統計学演習		(中嶋)	1	2年後期	2	選択必修B
		34507101	環境情報処理実習		齋藤・小森田	1	2年前期	2	選択必修B
		34319701	応用情報処理実習		小森田	1	3年前期	2	選択必修B
		34573101	Science EnglishⅠ		Morrow	②	3年前期	1	
34573201	Science EnglishⅡ		Morrow	②	3年前期	1			

(注1) 選択必修Aの科目群から8科目16単位以上を、選択必修Bの科目群から6科目6単位以上をそれぞれ修得してください。

(注2) 教職欄に記載の「理」は理科の教職科目、「家」は家庭科の教職科目、「農」は農業の教職科目。

(注3) 集中講義のうち、★はキャップ制の除外科目となる恒久的な集中講義です。

## 専門科目群 環境資源学専攻

		時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者 (非常勤)	○は 単位数 必修	配当年次	週コマ 数	備考	
専攻専門科目	展開科目	生態関係科目	34123801	沿岸環境保全論		小森田	2	3年前期	1	集中講義(実習)★
			34501301	海洋生態学	理	小森田	②	2年後期	1	
			34502101	プランクトン学		一宮	2	2年後期	1	
			34503101	海藻学		(松田)	2	2年後期	2	
			34504301	沿岸域環境アセスメント実習	理	小森田	①	2年前期		
			34505301	森林生態学	農	斎藤	②	2年後期	2	
			34506301	森林環境アセスメント実習	農	斎藤	①	2年後期		
			34507301	森林資源学	農	斎藤	②	3年前期	2	
		生物資源関係科目	34532401	海洋微生物学	理	(和田)	2	2年後期		集中講義★
	34532501		水産環境学	理	一宮	②	2年前期	1		隔週開講 集中講義(実習)★
	34533101		魚類環境生理学		(田角)	2	3年前期	2		
	34534501		水産環境アセスメント実習		一宮	①	2年前期			
	34535701		植物食資源学	農	松添	②	2年前期	1		
	34536501		作物生産学	農	松添	②	2年後期	1		
	34537501		植物生産環境アセスメント実習	農	松添	①	3年前期	2		
	34540501	食資源開発学	農	松崎	2	2年前期	1			
		物質環境関係科目	34561401	水環境科学		阿草	②	3年前期	1	集中講義★
	34561501		環境分析化学	理	小林	②	2年前期	1		
	34562101		環境分析化学実験Ⅰ	理	小林	①	2年後期	2		
	34563101		環境分析化学実験Ⅱ	理	阿草	①	3年前期	2		
	34163901		環境衛生科学	農	石橋・阿草	2	3年後期	1		
	34564501		生物濃縮論	農	阿草 他	②	2年後期			
	34565501		食品分析学	農	白土	2	3年前期	1		
	34566501		食品安全性学	農	阿南	2	3年後期	1		
	34567101		環境素材学		石橋	②	3年前期	1		
	34567201		高分子化学	理	石橋	2	2年前期	1		
	34568101		高分子化学実験	理	石橋	①	2年後期	2		
	34569701		大気環境学	理	張	②	3年前期	1		
	34570101		大気環境学実験	理	張	①	2年後期	2		
	34571301	エネルギー環境学	理	(松本・上野)	2	3年前期	2	隔週開講		
	34572101	環境計量演習		(有菌)	1	3年後期				
		環境計画関係科目	34601701	環境経済学		井田	2	2年後期	1	
	34602701		環境関連法規	農	(吉田)	2	3年前期	2	隔週開講	
	34605701		農山村域計画学	農	柴田	2	3年前期	1		
	34607301		地域景観計画学	農	柴田	2	3年後期	1		
	34608301		都市居住政策学		鄭	2	3年後期	1		
34609301	都市計画			鄭	2	3年前期	1			
	関連科目	34920101	職業指導	農	(楢本)	2	3年前期	1		
	卒業研究	48100041	卒業論文		学部全教員	⑧	4年次		4年次配当	

(注1) 教職欄に記載の「理」は理科の教職科目、「家」は家庭科の教職科目、「農」は農業の教職科目。

(注2) 集中講義のうち、★はキャップ制の除外科目となる恒久的な集中講義です。

専門科目群 居住環境学専攻

		時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は単位数は必修	配当年次	週コマ数	備考	
学科共通科目	導入科目	34101001	環境共生論		石橋・他	②	1年前期	1	集中講義★	
		34109001	現代生活と環境問題	農	阿草・他	②	1年前期	1		
		34111001	居住環境を創る	家	北原・他	②	1年前期	1		
		34107001	食と環境	農	阿南・他	②	1年前期	1		
		34108001	フィールドワーク		学部全教員	①	1年後期			
		34181001	環境共生総合演習		学部全教員	①	3年後期	1		
		13100541	情報処理実習B	家	(宮里)	①	1年後期	2		
基礎科目		34321201	図学	⑩へ	(本田)	②	1年前期	1		
		34676201	CAD実習I	①イ	(本間)	①	2年後期	2		
		34670201	居住環境デザイン実習I	⑩へ	家 佐藤	②	1年前期	3		
		34671201	居住環境デザイン実習II	⑩へ	(小嶋)	②	1年後期	3		
		34315301	数学I		(犬塚)	2	1年前期	1		
		34316301	数学II		(犬塚)	2	1年後期	1		
		34308302	物理学I	理	張	2	1年前期	1		
		34309302	物理学II	理	張	2	1年後期	1		
		34319701	応用情報処理実習		小森田	1	3年前期	2		
	専攻専門科目	都市・地域計画関係科目	34605701	農山村域計画学		農 柴田	2	3年前期	1	
34141801			比較都市文化論	⑩へ	家 鄭	2	2年前期	1		
34607301			地域景観計画学		農 柴田	2	3年後期	1		
34608301			都市居住政策学	⑩へ		鄭	2	3年後期	1	
34609301			都市計画	⑩へ		鄭	②	3年前期	1	
34144801			地域計画論		家 柴田	②	2年後期	1		
居住空間計画関係科目			34662201	住空間計画学	②ロ	家 高橋	②	2年前期	1	
			34143801	比較住文化論	②ロ	家 高橋	2	2年後期	1	
			34663201	インテリアデザイン論	⑩へ	(阪本)	2	2年後期	1	
			34664201	インテリアデザイン実習	⑩へ	(阪本)	2	3年前期	3	
			34145801	福祉住環境原論	②ロ	家 佐藤	②	3年後期	1	
			34667201	建築計画学	②ロ	佐藤	②	2年後期	1	
			34669201	木質デザイン論	⑩へ	(梅田)	②	3年前期	1	
		34668201	建築史	②ロ	(内丸)	②	1年後期	1		
環境調整・設備関係科目			34708201	建築環境工学I	③ロ	家 辻原	②	2年前期	1	
			34709201	建築環境工学II	③ロ	辻原	②	2年後期	1	
			34703201	環境設備システム学	④ロ	家 田中	②	3年前期	1	
		34704201	環境設備システム学演習	④ロ	田中・辻原	1	3年前期	1		
		34710201	環境調整工学	⑩へ	辻原・田中	2	3年後期	1		
		34706201	居住環境調整工学実験	③ロ	辻原・田中	1	3年後期	2		
		34707201	環境設備学	④ロ	田中	②	2年後期	1		

(注1) 授業科目各欄の①～⑩は一級建築士指定科目。イ～へは二級建築士指定科目。建築士免許については「各種免許の取得について」12-2 一級建築士・二級建築士についてを参照のこと。

(注2) 教職欄に記載の「理」は理科の教職科目、「家」は家庭科の教職科目、「農」は農の教職科目。

(注3) 集中講義のうち、★はキャップ制の除外科目となる恒久的な集中講義です。

専門科目群 居住環境学専攻

時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は単位数 は必修数	配当年次	週コマ数	備考
構造・材料関係科目	34731201	建築構法	⑥ハ	北原	②	1年後期	1
	34681201	建築構造の基礎	⑤ハ	家 北原	②	1年後期	1
	34733201	木質構造学	⑥ハ	北原	②	2年前期	1
	34742201	静定構造力学	⑤ハ	李(麗)	②	2年前期	1
	34743201	静定構造力学演習	⑤ハ	李(麗)	①	2年前期	1
	34744201	不静定構造力学	⑤ハ	李(麗)	2	2年後期	1
	34745201	不静定構造力学演習	⑤ハ	李(麗)	1	2年後期	1
	34736201	居住空間材料学	⑦ハ	北原	②	2年後期	1
	34746201	鉄筋コンクリート構造学	⑥ハ	李(麗)	②	3年前期	1
	34747201	鉄骨構造学	⑥ハ	(東)	2	3年後期	1
34748201	居住空間構造・材料実験	⑦ハ	北原	1	3年前期	2	
全体共通	34672201	居住環境デザイン実習Ⅲ	①イ	高橋	②	2年前期	3
	34678201	木質材料活用論		北原	2	2年後期	1
	34505301	森林生態学		農 斎藤	2	2年後期	2
	34673201	居住環境デザイン実習Ⅳ	①イ	佐藤・他	②	2年後期	3
	34501301	海洋生態学		理 小森田	2	2年後期	1
	34674201	居住環境デザイン実習Ⅴ	⑩ハ	柴田・他	②	3年前期	3
	34677201	CAD実習Ⅱ	①イ	(本間)	1	3年前期	2
	34569701	大気環境学		理 張	2	3年前期	1
	34602701	環境関連法規		農 (吉田)	2	3年前期	1
	34311101	地学Ⅰ		理 (小島)	2	3年前期	1
	34571301	エネルギー環境学		理 (松本・上野)	2	3年前期	2
	34675201	居住環境デザイン実習Ⅵ	①イ	高橋・他	②	3年後期	3
	34679201	建築施工学	⑧ニ	(武田)	②	3年後期	1
	34601701	環境経済学		井田	2	3年後期	1
	34761201	地方自治論		澤田	2	3年後期	1
	34311201	地学Ⅱ		理 (小島)	2	3年後期	1
34611301	環境防災・安全工学	⑩ハ	北原	2	4年前期	1	
34680201	建築法規	⑨ホ	(堀田)	②	4年前期	1	
34603301	公共政策論		井寺	2	4年後期	1	
卒業研究	48100042	卒業論文		学部全教員	⑧	4年次	4年次配当

隔週開講

総管の「公共政策論Ⅱ」と同時開講

(注1) 授業科目各欄の①～⑩は一級建築士指定科目。イ～ハは二級建築士指定科目。建築士免許については「各種免許の取得について」12-2 一級建築士・二級建築士についてを参照のこと。

(注2) 教職欄に記載の「理」は理科の教職科目、「家」は家庭科の教職科目、「農」は農の教職科目。

(注3) 集中講義のうち、★はキャップ制の除外科目となる恒久的な集中講義です。

専門科目群 食健康環境学専攻

		時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は単位数は必修	配当年次	週コマ数	備考		
学科共通科目	導入科目	34101001	環境共生論		石橋・他	②	1年前期	1	集中講義★		
		34109001	現代生活と環境問題	農	阿草・他	②	1年前期	1			
		34111001	居住環境を創る	家	北原・他	②	1年前期	1			
		34107001	食と環境	農	阿南・他	②	1年前期	1			
		34108001	フィールドワーク	㊦	学部全教員	①	1年後期				
	34181001	環境共生総合演習		学部全教員	①	3年後期	1				
	13100543	情報処理実習C	家	(稲生)	①	1年後期	2				
専攻専門科目	基礎科目	34301501	生物学Ⅰ		理 小森田	2	1年前期	1	基礎科目中の選択必修科目から8単位以上を修得すること。		
		34302501	生物学Ⅱ		理 (高橋)	2	1年後期	1			
		34303701	生物学実験B		理 友寄・他	①	1年後期	2			
		34304501	基礎化学		理 小林	2	1年前期	1			
		34307701	化学実験B		理 松崎・他	①	1年前期	2			
		34305502	有機化学	食	理 阿草	2	1年後期	1			
		34324402	生命有機化学	㊦	理 松崎	②	1年後期	1			
		34325402	生化学	食 栄	理 吉田(卓)	2	1年後期	1			
		34326401	生化学実験	食 ㊦	理 友寄	1	3年後期	2			
		34308303	物理学Ⅰ		理 張	2	1年前期	1			
		34309303	物理学Ⅱ		理 張	2	1年後期	1			
		34310102	物理学実験		理 張	1	2年前期	2			
		34317501	統計学		(中嶋(康))	2	2年前期	1			
		34318501	統計学演習		(中嶋(康))	1	2年後期	2			
	34319701	応用情報処理実習		小森田	1	3年前期	2				
	展開科目	食環境関係科目	34163801	環境衛生学	食 ㊦	農 阿南	2	2年後期		1	集中講義 集中講義
			34162801	食文化論		(秋吉)	2	2年前期		1	
			34539502	食品学総論	㊦ 栄	家 白土	2	1年後期		1	
			34538501	食品化学	食	農 白土	2	2年前期		1	
			34831401	食品学各論	㊦ 栄	家 松崎	2	2年後期		1	
34565501			食品分析学	食	農 白土	2	3年前期	1			
34565601			食品分析学実験	㊦ 栄	理 白土	1	3年前期	2			
34535701			植物食資源学	㊦	農 松添	2	2年前期	1			
34535501			作物生産学		農 松添	2	2年後期	1			
34540501			食資源開発学	㊦	農 松崎	2	2年前期	1			
34834401			食品微生物学	食	理 松崎	2	3年前期	1			
34541501			食品バイオテクノロジー	㊦ ㊦	農 松崎	2	3年後期	1			
34835401			食品バイオテクノロジー実験	㊦ ㊦	農 松崎	1	3年後期	2			
34836401			調理学	栄	家 中嶋(名)	2	1年前期	1			
34838401			調理学実習Ⅰ	栄	家 田尻	1	1年後期	2			
34839401			調理学実習Ⅱ	栄	家 中嶋(名)	1	2年前期	2			
34840402	食品加工学	㊦ ㊦	家 白土	2	2年後期	1					
34841402	食品加工学実験	㊦ 栄	家 白土	1	2年後期	2					
34842401	食品保存学	食	農 (野間)	2	3年後期						
34843402	食品製造学	食	農 (井倉)	2	2年前期						
34844402	食品衛生学	食 栄	家 阿南	2	2年後期	1					
34845401	食品衛生学実験	食 栄	家 阿南	1	3年前期	2					
34866501	食品安全性学	㊦	農 阿南	2	3年後期	1					

(注1) 授業科目名覧右側に記載の「食」は食品衛生監視員・管理者必修 ㊦は食品衛生監視員・管理者選択必修

(注2) 授業科目名覧右側に記載の「栄」は栄養士・管理栄養士必修 ㊦は管理栄養士必修

(注3) 教職欄に記載の「理」は理科の教職科目、「家」は家庭科の教職科目、「農」は農業の教職科目

(注4) 集中講義のうち、★はキャップ制の除外科目となる恒久的な集中講義です。

専門科目群 食健康環境学専攻

		時間割コード	授業科目名	教職科目	担当者(非常勤)	○は単位数は必修	配当年次	週コマ数	備考		
展開科目	食健康環境関係科目	34166801	健康管理学	栄	家	阿南	2	3年前期	1	集中講義	
		34164801	環境生理学	⊕		松本	2	2年前期	1		
		34165801	環境生理学実習	⊕		松本		2年前期			
		34861401	栄養運動生理学	栄	理	松本・(中山)	2	3年前期	1		
		35860401	栄養運動生理学実習	栄		松本・(中山)	1	3年後期	2		
		34862402	解剖生理学	⊕ 栄	理	下田	2	1年前期	1		
		34863401	解剖生理学実験	⊕ 栄	理	下田	1	2年後期	2		
		34864401	発育発達運動学			青木	2	2年後期	1		
		34865401	栄養学総論	⊕ 栄	家	友寄	2	2年前期	1		
		34866401	栄養学各論	⊕ 栄	家	友寄	2	2年後期	1		
		34867401	栄養学実験	⊕ 栄		友寄	1	2年前期	2		
		34868401	栄養生化学	⊕ ⊕	家	吉田(卓)	2	2年前期	1		
		34880501	栄養機能性学	⊕ ⊕	農	友寄	2	3年前期	1		
		34881402	栄養教育論	栄		坂本	2	1年後期	1		
		34882402	栄養指導論	栄		坂本	2	2年後期	1		
		35861401	ライフステージ栄養学演習	⊕		坂本	2	3年後期	1		
		34883401	栄養教育論実習	栄		坂本	1	2年前期	2		
		35878501	給食経営管理学Ⅰ	栄		中嶋(名)	2	2年後期	1		※(注4)
		35878601	給食経営管理学Ⅱ	⊕		(白坂)	2	3年前期	1		
		35879501	給食管理実習Ⅰ	栄		中嶋(名)	1	3年前期	2		
		35879601	給食管理実習Ⅱ	栄		(白坂)	1	3年後期	2		
		34886401	給食経営管理臨地実習	栄		中嶋(名)	1	3年前期			集中講義※(注4)
		34876401	公衆栄養学	栄	家	岸	2	3年後期	1		※(注4)
		35865401	栄養情報管理学	⊕		岸	2	3年前期	1		
		35866401	生活習慣病予防学	⊕		下田	2	3年後期	1		
		35867402	地域栄養アセスメント実習	栄		岸	1	3年後期	2		
		35868401	公衆栄養学臨地実習	⊕		岸	1	4年前期			集中講義※(注4)
		35869401	臨床医学概論	栄		下田	2	2年後期	1		
		35870401	疾病論	栄		下田	2	3年前期	1		
		35871401	生体防御学	⊕		下田	2	2年前期	1		
		35872401	臨床栄養アセスメント	⊕		吉田(卓)	2	2年後期	1		※(注4)
		34887401	臨床代謝栄養学	⊕	家	吉田(卓)	2	3年後期	1		
		35873401	臨床栄養治療学	栄		吉田(卓)	2	3年前期	1		
		35874401	臨床外科栄養学	⊕		(横溝)	2	4年前期	1		
		35875401	臨床栄養学実習	⊕		吉田(卓)	1	3年前期	2		
34888401	臨床治療食実習	栄		(西本)	1	3年前期	2				
34879401	公衆衛生学	食 栄		阿南	2	3年後期	1				
35876401	臨床栄養学臨地実習	⊕		吉田(卓)	2	3年前期		集中講義※(注4)			
35877401	実践栄養学総合演習	⊕		坂本・他	4	4年前期	2				
関連科目		34903901	被服学概論		家	(篠塚)	2	1年前期	1		
		34901901	生活経営学概論		家	(篠塚)	2	1年前期	1		
		34907901	育児学		家	(江藤・他)	2	1年後期	1		
		34902901	家族関係論		家	(八幡)	2	2年前期	1		
		34904901	被服構成学実習		家	(篠塚)	2	2年前期・後期	2		
		34906902	家庭機械・電気		家	(齊藤)	2	1年後期	1		
		34910101	学校栄養教育論		⊕	(原田)	2	3年前期	1		
		34910201	食教育実践論		⊕	(原田)	2	3年後期	1		
		35999901	管理栄養士特別演習			中嶋・他	2	4年後期	1		
卒業研究	48100043	卒業論文			学部全教員	⑧	4年次		4年次配当		

(注1) 授業科目名覧右側に記載の「食」は食品衛生監視員・管理者必修 ⊕は食品衛生監視員・管理者選択必修  
 (注2) 授業科目名覧右側に記載の「栄」は栄養士・管理栄養士必修 ⊕は管理栄養士必修  
 (注3) 教職欄に記載の「理」は理科の教職科目、「家」は家庭科の教職科目、「農」は農業の教職科目、⊕は栄養教諭の教職科目  
 (注4) 給食経営管理臨地実習を履修するためには、給食経営管理学Ⅰの単位を修得しておくことが必要です。臨床栄養学臨地実習を履修するためには、臨床栄養アセスメントの単位を修得しておくことが必要です。公衆栄養学臨地実習を履修するには、公衆栄養学の単位を修得しておくことが必要です。

## 教職関連科目群

## ※教育の基礎的理解に関する科目等

時間割コード	授業科目名	担当者 (非常勤)	○ は 単 位 数 修	配当年次	週コマ数	備 考
930102	教育原理	石村	②	2年前期	1	
940702	教職論	(徳島)	②	1年後期	1	
930301	教育社会学	石村	2	3年後期		集中講義 } いずれか1科目 選択必修
940101	教育制度論	(小川芳)	2	3年前期	1	
942201	教育心理学	石井・(井邑)	②	2年前期	1	
942301	特別支援教育	(肥後)	①	2年後期		集中講義
941001	教育課程論	石村	②	3年前期	1	
941101	道德教育の理論と方法(教科)	石村	2	2年後期	1	中学校教諭のみ必修
942401	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法(教科)	(大野)	②	2年後期	1	中学校・高等学校教諭のみ必修
942501	道德、特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法(栄養)	石村・(堀江)	②	2年後期	1	栄養教諭のみ必修
930701	教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む)	宮園・(内山)	②	2年後期		集中講義
942101	生徒指導の理論と方法	石井	②	3年前期	1	
942601	教育相談の理論と方法(進路指導及びキャリア教育を含む。)(教科)	石井	②	3年後期	1	中学校・高等学校教諭のみ必修
941701	教育相談の理論と方法(栄養)	石井	②	3年後期	1	栄養教諭のみ必修
941501	教育実習指導	石村・他	①	4年次	1	
939201	教育実習(中高)	石村・他	④	4年次	※	4年次に教育実習 中学校教諭免許取得を希望する場合は「中高」を、高等学校教諭のみの場合は「高」を履修すること。 ※3年次における実習生希望調査とは別に、改めて履修登録をする必要があるため、注意すること。
940001	教育実習(高)	石村・他	②	4年次	※	
941601	栄養教育実習指導	石村・他	①	4年次	1	栄養教諭のみ必修
940201	栄養教育実習	石村・他	①	4年次	※	4年次に教育実習 栄養教諭のみ必修 ※3年次における実習生希望調査とは別に、改めて履修登録をする必要があるため、注意すること。
942701	教職実践演習(中高)	石村・他	②	4年後期	1	中学校・高等学校教諭のみ必修
942001	教職実践演習(栄養)	石村・他	②	4年後期	1	栄養教諭のみ必修

## ※理科の指導法に関する科目

時間割コード	授業科目名	担当者 (非常勤)	○ は 単 位 数 修	配当年次	週コマ数	備 考
933101	理科教育法Ⅰ	(有田)	2	3年前期		集中講義 } 中学校教諭一種免許状の場合、4科目必修。高等学校一種免許状の場合、2科目選択必修。(但し、教育実習履修のためには、4年次に進級するまでにⅠ及びⅡの単位習得が必要。)
933201	理科教育法Ⅱ	(宮尾)	2	3年後期		
933301	理科教育法Ⅲ	(宮尾)	2	4年前期		
933401	理科教育法Ⅳ	(宮尾)	2	4年後期	1	

## ※家庭科の指導法に関する科目

時間割コード	授業科目名	担当者 (非常勤)	○ は 単 位 数 修	配当年次	週コマ数	備 考
934101	家庭科教育法Ⅰ	田尻	2	3年前期	1	中学校教諭一種免許状の場合、4科目必修。高等学校一種免許状の場合、2科目選択必修。(但し、教育実習履修のためには、4年次に進級するまでにⅠ及びⅡの単位習得が必要。)
934201	家庭科教育法Ⅱ	田尻	2	3年後期	1	
934301	家庭科教育法Ⅲ	(篠塚)	2	4年前期	1	
934401	家庭科教育法Ⅳ	(篠塚)	2	4年後期	1	

## ※農業科の指導法に関する科目

時間割コード	授業科目名	担当者 (非常勤)	○ は 単 位 数 修	配当年次	週コマ数	備 考
938101	農業科教育法Ⅰ	(栢本)	②	3年前期	1	
938102	農業科教育法Ⅱ	(栢本)	②	3年後期	1	

## 12 各種免許状の取得について

### 12-1 教育職員免許状の取得について

本学は、「総合性への志向」、「地域性の重視」、「国際性の推進」を理念として掲げており、人文、自然、社会の学問分野を包括する総合的な知識の形成を図り、地域社会が当面する諸問題を分析解決するとともに国際社会の発展に寄与できる、想像力豊かな人材の育成を行っています。以上に基づき、豊かな教養と総合的な知識を十分に生かし、幅広い視点から物事を冷静に分析し考察する能力を身に付けるとともに、確かな行動力をもって実践的に地域の教育に貢献できる教員を養成しています。

#### 教員養成の目標（環境共生学部環境共生学科）

人間活動を支える場としての豊かな自然を保全し利用する方法、地域住民の快適で健康な生活を確保する方策等を科学的に追求し、人間とそれを取り巻く環境とが共生するためのあり方を探ることによって、自然と人間活動との共生を具体的実現していく環境共生型社会の創造に貢献することができる教員を養成します。そして、有するすべての教職課程に通じて、持続可能な社会づくりの担い手を育てることができる教員を養成します。

各教育職員免許状を取得するには、それぞれの専攻の卒業に必要な単位の他に、以下の2) 環境共生学部における教育職員免許状取得で修得すべき授業科目に示す科目の単位を修得し、都道府県教育委員会に各自で申請することが必要です。熊本県教育委員会への申請は、本学教職課程の単位を満たしている場合は教務入試課で一括して行います（ただし、栄養教諭一種免許状は除きます）。

#### 12-1.1 取得できる免許状の種類

環境共生学部	環境共生学科	中学校教諭一種免許状	理科
		高等学校教諭一種免許状	理科
		中学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	家庭
		高等学校教諭一種免許状	農業
	食健康環境学専攻	栄養教諭一種免許状 ※基礎資格として管理栄養士養成課程を修了し、栄養士免許を有することが必要	

#### 12-1.2 環境共生学部における教育職員免許状取得で修得すべき授業科目

修得すべき授業科目は、(1)教科及び教科の指導法に関する科目、(2)栄養に係る教育に関する科目、(3)大学が独自に設定する科目、(4)教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目、(5)教育の基礎的理解に関する科目等の5つに分類されています。次の表は、各免許状の取得に必要とされる科目名と単位数を示したものです。数字は単位数で、数字を○で囲んである科目は、各免許種別の必修科目です。



## (1) 教科及び教科の指導法に関する科目

## 【中学校教諭一種免許状（理科）】

- ① 中学校教諭一種免許状（理科）取得のためには、次表の科目から合計28単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上修得しなければなりません。
- ② 28単位を超えるものは、「(3)大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。

免許法施行規則に定める区分等		授 業 科 目	単位数	備 考	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	物理学Ⅰ	②	]
			物理学Ⅱ	②	
			大気環境学	2	
			エネルギー環境学	2	
		物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	物理学実験	①	
			大気環境学実験	1	
		化 学	基礎化学	②	
			有機化学	②	
			環境分析化学	2	
			高分子化学	2	
			生化学	2	
			生命有機化学	2	
		化学実験（コンピュータ活用を含む。）	化学実験A	1	
			化学実験B	1	
環境分析化学実験Ⅰ	1				
環境分析化学実験Ⅱ	1				
高分子化学実験	1				
食品分析学実験	1				
生化学実験	1				
生物学	生物学Ⅰ	②			
	生物学Ⅱ	2			
	水産環境学	2			
	海洋微生物学	2			
	海洋生態学	2			
	解剖生理学	2			
	栄養運動生理学	2			
	食品微生物学	2			
生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	生物学実験A	1			
	生物学実験B	1			
	沿岸域環境アセスメント実習	1			
	解剖生理学実験	1			
地学	地学Ⅰ	②			
	地学Ⅱ	②			
地学実験（コンピュータ活用を含む。）	地学実験Ⅰ	①			
	地学実験Ⅱ	1			
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	理科教育法Ⅰ	②			
	理科教育法Ⅱ	②			
	理科教育法Ⅲ	②			
	理科教育法Ⅳ	②			

【高等学校教諭一種免許状（理科）】

- ① 高等学校教諭一種免許状（理科）取得のためには、次表の科目から合計24単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上修得しなければなりません。
- ② 24単位を超えるものは、「(3)大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。
- ③ 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）は2科目4単位以上選択必修です。但し、後述「(5)教育の基礎的理解に関する科目等」の「3」に記載のとおり、教育実習を履修するには、4年次に進級するまでに「理科教育法Ⅰ」「理科教育法Ⅱ」の単位を修得していなければなりません。

免許法施行規則に定める区分等		授 業 科 目	単位数	備 考		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 大気環境学 エネルギー環境学	② ② 2 2		
		化学	基礎化学 有機化学 環境分析化学 高分子化学 生化学 生命有機化学	② ② 2 2 2 2		
		生物学	生物学Ⅰ 生物学Ⅱ 水産環境学 海洋微生物学 海洋生態学 解剖生理学 栄養運動生理学 食品微生物学	② 2 2 2 2 2 2 2		
		地学	地学Ⅰ 地学Ⅱ	② ②		
		物理学実験 化学実験A 化学実験B 物理学実験（コンピュータ活用を含む。） 生物学実験A 生物学実験B	① 1 1 1 1	] いずれか1科目 選択必修		
		化学実験（コンピュータ活用を含む。） 生物学実験（コンピュータ活用を含む。） 地学実験（コンピュータ活用を含む。）	① 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			] いずれか1科目 選択必修
		各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	理科教育法Ⅰ 理科教育法Ⅱ 理科教育法Ⅲ 理科教育法Ⅳ	2 2 2 2		

## 【中学校教諭一種免許状（家庭）】

- ① 中学校教諭一種免許状（家庭）取得のためには、次表の科目から合計28単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上修得しなければなりません。
- ② 28単位を超えるものは、「(3)大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。

免許法施行規則に定める区分等		授 業 科 目	単位数	備 考
教科及び教科の指導法に関する科目	家庭経営学（家庭関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経営学概論（家庭経済学を含む。）	②	
		家族関係論	②	
	被服学 （被服制作実習を含む。）	被服学概論	②	
		被服構成学実習	②	
	食物学 （栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食品学総論	②	
		栄養学総論	②	
		調理学	②	
		調理学実習Ⅰ	①	
		調理学実習Ⅱ	1	
		食品学各論	2	
		食品加工学	2	
		食品加工学実験	1	
		栄養生化学	2	
		食品衛生学	2	
栄養学各論	2			
臨床代謝栄養学	2			
公衆栄養学	2			
住居学	居住環境を創る	②		
	環境設備システム学	2		
	比較都市文化論	2		
	比較住文化論	2		
	地域計画論	2		
	福祉住環境原論	2		
	居住環境デザイン実習Ⅰ	2		
	住空間計画学	2		
	建築構造の基礎	2		
	建築環境工学Ⅰ	2		
住まいと地域環境	2	全学共通		
保育学 （実習を含む。）	育児学（実習及び家庭看護を含む。）	②		
	健康管理学	2		
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	家庭科教育法Ⅰ	②		
	家庭科教育法Ⅱ	②		
	家庭科教育法Ⅲ	②		
	家庭科教育法Ⅳ	②		

【高等学校教諭一種免許状（家庭）】

- ① 高等学校教諭一種免許状（家庭）取得のためには、次表の科目から合計24単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上修得しなければなりません。
- ② 24単位を超えるものは、「(3)大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。
- ③ 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）は2科目4単位以上選択必修です。但し、後述「(5)教育の基礎的理解に関する科目等」の「3」に記載のとおり、教育実習を履修するには、4年次に進級するまでに「家庭科教育法Ⅰ」「家庭科教育法Ⅱ」の単位を修得していなければなりません。

免許法施行規則に定める区分等		授 業 科 目	単位数	備 考	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	家庭経営学（家庭関係学及び家庭経済学を含む。）	生活経営学概論（家庭経済学を含む。） 家族関係論	② ②	
		被服学（被服制作実習を含む。）	被服学概論 被服構成学実習	② ②	
		食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）	食品学総論	②	
			栄養学総論	②	
			調理学	②	
			調理学実習Ⅰ	①	
			調理学実習Ⅱ	1	
			食品学各論	2	
			食品加工学	2	
			食品加工学実験	1	
			栄養生化学	2	
			食品衛生学	2	
		栄養学各論	2		
		臨床代謝栄養学	2		
公衆栄養学	2				
住居学（製図を含む。）	居住環境を創る	②			
	環境設備システム学	2			
	比較都市文化論	2			
	比較住文化論	2			
	地域計画論	2			
	福祉住環境原論	2			
	居住環境デザイン実習Ⅰ	2			
	住空間計画学	2			
	建築構造の基礎	2			
	建築環境工学Ⅰ	2			
住まいと地域環境	2	全学共通			
保育学（実習及び家庭看護を含む。）	育児学（実習及び家庭看護を含む。）	②			
	健康管理学	2			
家庭電気・家庭機械・情報処理	家庭機械・電気	②			
	情報処理実習A	1	いずれか 1科目 選択必修		
	情報処理実習B	1			
情報処理実習C	1				
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	家庭科教育法Ⅰ	2	2科目以上 選択必修		
	家庭科教育法Ⅱ	2			
	家庭科教育法Ⅲ	2			
	家庭科教育法Ⅳ	2			

【高等学校教諭一種免許状（農業）】

- ① 高等学校教諭一種免許状（農業）取得のためには、次表の科目から合計24単位を修得し、さらに、免許法施行規則に定める区分等からそれぞれ1単位以上修得しなければなりません。
- ② 24単位を超えるものは、「(3)大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。

免許法施行規則に定める区分等		授 業 科 目	単位数	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	農業の関係科目	現代生活と環境問題	②
			食と環境	②
			作物生産学	②
			食品製造学	②
			環境衛生学	2
			環境衛生科学	2
			環境関連法規	2
			植物食資源学	2
			植物生産環境アセスメント実習	1
			食資源開発学	2
			食品安全性学	2
			食品化学	2
			食品バイオテクノロジー	2
			食品バイオテクノロジー実験	1
			食品分析学	2
			食品保存学	2
			栄養機能性学	2
			森林環境アセスメント実習	1
			森林資源学	2
			森林生態学	2
生物濃縮論	2			
地域景観計画学	2			
農山村域計画学	2			
	職業指導	職業指導	②	
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		農業科教育法Ⅰ	②	
		農業科教育法Ⅱ	②	

(2) 栄養に係る教育に関する科目

【栄養教諭（食健康環境学専攻）】

免許法施行規則に定める区分	該当授業科目	単位数
栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	学校栄養教育論	②
食生活に関する歴史的及び文化的事項		
幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項	食教育実践論	②
食に関する指導の方法に関する事項		

- (注1) 栄養教諭免許取得にあたっては、上記2科目とも必修です。
- (注2) 栄養教育実習を履修するには、上記2科目とも修得済みでなくてはなりません。
- (注3) 栄養教諭免許取得にあたっては、基礎資格として管理栄養士課程を修了し、栄養士免許を有することが必要です。

(3) 大学が独自に設定する科目

- ① 中学校（理科、家庭）の免許状取得のためには、次表の「大学が独自に設定する科目」と「(1)教科及び教科の指導法に関する科目」さらに「(5)教育の基礎的理解に関する科目等」から合計4単位以上、高等学校（理科、家庭、農業）は12単位以上を修得しなければなりません。
- ② 「大学が独自に設定する科目」として算入した科目の単位は、「(1)教科及び教科の指導法に関する科目」及び「(5)教育の基礎的理解に関する科目等」の単位に含めることはできません。

修得すべき授業科目		中学理科	高校理科	中学家庭	高校家庭	高校農業
大学が独自に設定する科目	人権と文化	2				
	持続可能な開発と教育	②				
	道徳教育の理論と方法	※教育の基礎的理解に関する科目等	2	※教育の基礎的理解に関する科目等	2	2

- (注1) 「道徳教育の理論と方法」は、高等学校教諭一種免許状の取得のために「大学が独自に設定する科目」として扱うことができます。
- (注2) 他免許種の「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位は、「大学が独自に設定する科目」として扱うことはできません。例えば、「高校理科」の免許状取得のために、「家庭科教育法Ⅰ」の単位を「大学が独自に設定する科目」としてカウントすることはできません。
- (注3) 高等学校教諭一種免許取得のために、「教育実習（中高）」の4単位のうち2単位を分割して「大学が独自に設定する科目」としてカウントすることはできません。
- (注4) 栄養教諭一種免許状の場合は、「大学が独自に設定する科目」はありません。

(修得方法の一例) p53の(5) 1 参照

高等学校教諭一種免許状（理科）の取得を目指す場合	
「(3)大学が独自に設定する科目」での必要単位	12単位
「(3)大学が独自に設定する科目」から	
「人権と文化」	2単位
「持続可能な開発と教育」	2単位
「道徳教育の理論と方法」	2単位
「(5)教育の基礎的理解に関する科目等」から	
「教育社会学」と	
「教育制度論」を両方修得	2単位
合計	4単位

12 - 8 = 4

残りの4単位は「教科及び教科の指導法に関する科目」から修得（教科及び教科の指導法に関する科目で最低28単位の修得が必要）

(4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

学 科		環境共生学科					食健康環境学専攻
		中学理科	高校理科	中学家庭	高校家庭	高校農業	
免許法施行規則に定める科目区分等	修得すべき授業科目						栄養教諭
日本国憲法	生活と憲法	1科目（2単位）以上 選択必修					
	現代社会と法						
体育	健康の科学	②					1科目（1単位）以上 選択必修
	生涯スポーツ実習Ⅰ						
	生涯スポーツ実習Ⅱ						
外国語コミュニケーション	Basic EnglishⅠ	②					
	Basic EnglishⅡ						
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	情報処理入門	②					

(5) 教育の基礎的理解に関する科目等

- ① 「教育の基礎的理解に関する科目等」として修得した単位で必要最低単位数（中学28単位、高校24単位）を超えたものは、「(3)大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。
- ② 「道徳教育の理論と方法」は中学校教諭一種免許状取得にあたっては必修ですが、高等学校教諭一種免許状の取得にあたっては、「(3)大学が独自に設定する科目」として扱うことができます。
- ③ 教育実習ならびに栄養教育実習を履修するには、「教職論」、「教育原理」、「教育心理学」、「生徒指導の理論と方法」のうち2科目以上を修得していなければなりません。さらに、4年次に進級するまでに、教育実習については各教科の指導法Ⅰ及びⅡを、栄養教育実習については学校栄養教育論及び食教育実践論を修得していなければなりません。

なお、「教育実習指導」「栄養教育実習指導」の履修状況に問題があり、実習を行うにふさわしくないと認められる場合には、「教育実習」「栄養教育実習」を履修することはできません。

学 科		環境共生学科		食健康環境学専攻	
		中学	高校	栄養教諭	
免許法施行規則に定める区分等		授業科目			
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想	教育原理	②		
	教育の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職論	②		
	教育に関する社会的、制度的な又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育社会学	1科目(2単位)以上 選択必修		
		教育制度論			
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	②		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	①		
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	②		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と方法	②	—	
	総合的な学習の時間の指導法(中) 総合的な探求の時間の指導法(高)	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	②	—	
	特別活動の指導法				
	道徳、総合的な学習及び特別活動に関する内容	道徳、特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	—	②	
	教育の方法及び技術	教育の方法と技術(情報通信技術の活用を含む。)	②		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法				
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導の理論と方法	②		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法 (進路指導及びキャリア教育を含む。)	②	—	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法 (栄養)	—	②		
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導	①	—	
		教育実習(中高)	④	—	
		教育実習(高)	—	② ※中学校も取得する者は(中高)のみ修得すればよい	—
	栄養教育実習	栄養教育実習	—	①	
		栄養教育実習指導	—	①	
	教職実践演習	教職実践演習(中高)	②	—	
教職実践演習(栄養)		—	②		

(注) 教育社会学及び教育制度論は選択必修です。もし、2科目履修した場合は、1科目は「(3)大学が独自に設定する科目」の単位とすることができます。



### 12-1.3 介護等体験について

中学校教諭一種免許状の取得を希望する者は、法律により7日以上の「介護等体験」が必要です。詳細については履修開始後に説明があるので、指示に従ってください。

### 12-1.4 履修カルテについて

教職課程履修者の履修状況を把握し、教職指導を充実させるために、教職課程履修カルテを作成します。履修カルテの作成の手順と取り扱いについては次のとおりです。

新入生オリエンテーション時：履修カルテの配布、活用方法を説明します。

新2・3年生オリエンテーション時：前年度を振り返り、履修カルテを記入します。

4年次「教育実習指導」「栄養教育実習指導」：授業で履修カルテを使用します。

4年次「教職実践演習」：授業で履修カルテを使用します。

## 12-2 一級建築士・二級建築士（居住環境学専攻）

以下の指定科目の分類区分ごとにおける必要単位数を修得し、卒業すれば、直ちに一級建築士、二級建築士を受験できます。

指定科目の分類						指定科目として開講する科目									
一級			二級			授業科目名	単位数	必修選択の別							
	開講単位	必要単位		開講単位	必要単位										
① 建築設計製図	8	7	イ 建築設計製図	8	3	CAD実習Ⅰ	1	必修							
						CAD実習Ⅱ	1	選択							
						居住環境デザイン実習Ⅲ	2	必修							
						居住環境デザイン実習Ⅳ	2	必修							
						居住環境デザイン実習Ⅵ	2	必修							
② 建築計画	10	7	ロ 建築計画、建築環境工学又は建築設備	20	2	比較住文化論	2	選択							
						住空間計画学	2	必修							
						福祉住環境原論	2	必修							
						建築計画学	2	必修							
						建築史	2	必修							
						建築環境工学Ⅰ	2	必修							
						建築環境工学Ⅱ	2	必修							
						居住環境調整工学実験	1	選択							
						環境設備学	2	必修							
						環境設備システム学	2	必修							
③ 建築環境工学	5	2				環境設備システム学演習	1	選択							
						④ 建築設備	5	2							
						⑤ 構造力学								8	4
⑥ 建築一般構造	8	3													
⑦ 建築材料							3	2							
⑧ 建築生産														2	2
⑨ 建築法規	2	1	ホ 建築法規	2	1	建築法規									
①～⑨単位数合計			51	30	イ～ホ単位数合計	51	10								
⑩ その他(適宜)			24		ヘ その他(適宜)	24		図学	2	必修					
居住環境デザイン実習Ⅰ	2	必修													
居住環境デザイン実習Ⅱ	2	必修													
居住環境デザイン実習Ⅴ	2	必修													
都市計画	2	必修													
比較都市文化論	2	選択													
インテリアデザイン論	2	選択													
インテリアデザイン実習	2	選択													
環境調整工学	2	選択													
都市居住政策学	2	選択													
木質デザイン論	2	必修													
環境防災・安全工学	2	選択													
①～⑩単位数合計	75	※	イ～ヘ単位数合計	75	40										

※ 免許登録に必要な実務経験の年数は、修得単位が50～59の場合：3年、60以上の場合：2年となっています。

## 【一級建築士】

一級建築士は、国土交通大臣が行う試験に合格して得られる資格で、建築物の設計・監理、工事の指導監督などを行うには重要な資格です。

一定規模以上の建築物の設計・監理は、一級建築士でなければできません。

## 【二級建築士】

二級建築士は、都道府県知事が行う試験に合格して得られる資格です。一級建築士と異なる点は、設計・監理ができる建築物の規模に制限があることです。

### 12-3 一級建築施工管理技士・二級建築施工管理技士（居住環境学専攻）

建築施工管理技術検定制度は、建設業法第27条第1項に基づき国土交通大臣指定機関が実施する国家試験です。技術検定合格者は、所定の手続きによって国土交通大臣から技術検定合格証明書が交付され「一級・二級建築施工管理技士」の称号が与えられます。

この技術検定合格者は建設業法で定められた専任技術者（建設業許可）主任技術者・管理技術者（現場常駐）としての資格が付与されます。

居住環境学専攻のカリキュラムは、国土交通大臣の認定を受けており、居住環境学専攻の卒業者は、検定の受験に必要な実務経験年数について、指定学科として扱われます。

## 12-4 栄養士免許（食健康環境学専攻）

- (1) 下記の栄養士指定必修科目計50単位を修得することにより栄養士免許が取得できます。
- (2) 栄養士免許取得後、指定施設における1年間の栄養士実務経験を経ることによって管理栄養士免許受験資格を取得できます。
- (3) 栄養士免許の申請は、卒業後、各人が行います。但し、管理栄養士国家試験を受験する場合は、大学で一括して行います。

栄養士法施行規則 による規定科目	(授 業 科 目)			
	授 業 科 目 名	単 位 数		
		講義又は演習	実験又は実習	計
社会生活と健康	健康管理学	2		4
	公衆衛生学	2		
人体の構造と機能	解剖生理学	2		9
	臨床医学概論	2		
	疾病論	2		
	生化学	2		
	解剖生理学実験		1	
食品と衛生	食品学総論	2		9
	食品学各論	2		
	食品衛生学	2		
	食品分析学実験		1	
	食品加工学実験		1	
	食品衛生学実験		1	
栄養と健康	栄養学総論	2		11
	栄養学各論	2		
	栄養運動生理学	2		
	臨床栄養治療学	2		
	栄養学実験		1	
	栄養運動生理学実習		1	
	臨床治療食実習		1	
栄養の指導	栄養教育論	2		8
	栄養指導論	2		
	公衆栄養学	2		
	栄養教育論実習		1	
	地域栄養アセスメント実習		1	
給食の運営	給食経営管理学Ⅰ	2		9
	調理学	2		
	調理学実習Ⅰ		1	
	調理学実習Ⅱ		1	
	給食管理実習Ⅰ		1	
	給食管理実習Ⅱ		1	
	給食経営管理臨地実習		1	
	合 計		36	

(注1) 食健康環境学専攻へ転入学、編入学、転学部あるいは転専攻した場合、食健康環境学専攻の該当する学年の定員を超えない範囲であれば、必要な科目を修得した場合、栄養士免許並びに管理栄養士免許受験資格を取得できます。ただし、修得に要する年限は、延長することがあります。

(注2) 食健康環境学専攻から環境資源学専攻あるいは居住環境学専攻へ転専攻した場合は、上記科目を修得しても栄養士免許並びに管理栄養士免許受験資格は取得できません。

## 12-5 管理栄養士免許（食健康環境学専攻）

下記の管理栄養士指定必修科目計90単位を修得することにより、管理栄養士免許受験資格を取得できます。

なお、管理栄養士免許の申請は、国家試験合格後、各人が行います。

## 専門基礎分野

栄養士法施行規則 による規定科目	(授 業 科 目)			
	授 業 科 目 名	単 位 数		
		講義又 は演習	実験又 は実習	計
社会・環境と健康	健康管理学	2		7
	環境衛生学	2		
	公衆衛生学	2		
	フィールドワーク		1	
人体の構造と機能及び疾病の 成り立ち	解剖生理学	2		19
	臨床医学概論	2		
	疾病論	2		
	生体防御学	2		
	環境生理学	2		
	生化学	2		
	栄養生化学	2		
	生活習慣病予防学	2		
	解剖生理学実験		1	
	環境生理学実習		1	
生化学実験		1		
食べ物と健康	食品学総論	2		18
	食品学各論	2		
	調理学	2		
	食品バイオテクノロジー	2		
	食品加工学	2		
	食品衛生学	2		
	食品分析学実験		1	
	調理学実習Ⅰ		1	
	調理学実習Ⅱ		1	
	食品バイオテクノロジー実験		1	
	食品加工学実験		1	
	食品衛生学実験		1	
	専門基礎分野計	34	10	

## 専門分野

栄養士法施行規則 による規定科目	(授 業 科 目)			
	授 業 科 目 名	単 位 数		
		講義又 は演習	実験又 は実習	計
基礎栄養学	栄養学総論 栄養学実験	2	1	3
応用栄養学	栄養学各論 栄養運動生理学 栄養機能性学 栄養運動生理学実習	2 2 2	1	7
栄養教育論	栄養教育論 栄養指導論 ライフステージ栄養学演習 栄養教育論実習	2 2 2	1	7
臨床栄養学	臨床栄養アセスメント 臨床代謝栄養学 臨床栄養治療学 臨床外科栄養学 臨床栄養学実習 臨床治療食実習	2 2 2 2	1 1	10
公衆栄養学	公衆栄養学 栄養情報管理学 地域栄養アセスメント実習	2 2	1	5
給食経営管理論	給食経営管理学Ⅰ 給食経営管理学Ⅱ 給食管理実習Ⅰ 給食管理実習Ⅱ	2 2	1 1	6
総合演習	実践栄養学総合演習	4		4
臨地実習	給食経営管理臨地実習 公衆栄養学臨地実習 臨床栄養学臨地実習		1 1 2	4
専門分野計		34	12	46
専門基礎分野及び専門分野合計		68	22	90

(注1) 食健康環境学専攻へ転入学、編入学、転学部あるいは転専攻した場合、食健康環境学専攻の該当する学年の定員を超えない範囲であれば、必要な科目を修得した場合、栄養士免許並びに管理栄養士免許受験資格を取得できます。ただし、修得に要する年限は、延長することがあります。

(注2) 食健康環境学専攻から環境資源学専攻あるいは居住環境学専攻へ転専攻した場合は、上記科目を修得しても栄養士免許並びに管理栄養士免許受験資格は取得できません。

## 12-6 食品衛生監視員及び食品衛生管理者

## (1) 取得できる資格について

食品衛生監視員とは、国や地方公共団体において、企業等に対し、食品衛生に関する監視や指導の業務を行う者のことです。また、食品衛生管理者とは、特に衛生上の考慮を必要とする乳製品その他の食品又は添加物の製造や加工について、その製造・加工施設において管理・指導を行う者のことです。本学卒業後、国や地方公共団体の衛生部門、食品関連企業等に就職を希望する者にとっては、これらの資格を取得することが有益です。

これらの資格を取得したい学生は、(2)に記載の授業科目を履修してください。卒業後に資格取得手続きを行う場合には、通常の卒業証明書とは異なり(3)の卒業証明書が必要となりますので、証明書交付願に資格名称を記載のうえ請求してください。

## (2) 修得すべき授業科目について

区分	授 業 科 目 名	配当 単位数	必修 単位数
A群 化学関係	有機化学	2	2
B群 生物化学関係	生化学	2	2
	生化学実験	1	1
	食品化学	2	2
	食品分析学	2	2
C群 微生物学関係	食品微生物学	2	2
	食品保存学	2	2
	食品製造学	2	2
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	2	2
	食品衛生学	2	2
	食品衛生学実験	1	1
	環境衛生学	2	2
E群 その他の関連科目	生命有機化学	2	左記の31単位のうちから18単位以上を修得すること
	食品学総論	2	
	食品学各論	2	
	食品分析学実験	1	
	植物食資源学	2	
	食資源開発学	2	
	食品バイオテクノロジー	2	
	食品バイオテクノロジー実験	1	
	食品加工学	2	
	食品加工学実験	1	
	食品安全性学	2	
	解剖生理学	2	
	解剖生理学実験	1	
	栄養学総論	2	
	栄養学各論	2	
	栄養学実験	1	
栄養生化学	2		
栄養機能性学	2		
必修単位数合計			40 以上

(3) 卒業証明書（食品衛生監視員及び食品衛生管理者用）の書式

第 号

## 卒業・学位記証明書

環境共生学部 環境共生学科  
食健康環境学専攻 食品衛生コース

氏 名 ○ ○ ○ ○  
生年月日 年 月 日

上記の者は、 年 月 日本学所定の課程を修めて卒業し、学士（環境共生学）の学位を得たことを証明します。

熊本県立大学長 ○ ○ ○ ○



## IV 履修モデル



## IV 履修モデル

### 1 環境資源学専攻における履修モデル

環境資源学専攻における履修モデルを次ページ以降の表に示します。表の見方は以下のとおりです。

- (1) 黒枠囲みの科目：必修科目であり、これらの単位を修得しないと卒業できません。
- (2) 灰色塗りの科目：選択の専門科目であり、これらの中から卒業に必要な数以上の単位を修得しないといけません。環境資源学専攻の学生としては、これらの科目をなるべくすべて履修するようにしてください。
- (3) 【   】の科目：共通科目（科目名または科目分野名で表記）です。各科目群から卒業に必要な数以上の単位を修得するようにしてください。詳しくは「環境共生学部カリキュラムの概要（共通科目群）」の表を参照してください。
- (4) 斜体にした科目：教員免許の取得に関係する科目です。詳しくは「各種免許の取得」の項を参照してください。

### 補足説明

- (1) 1年次前学期の月曜2限は、同じ時間帯に2つの科目を登録することになります。その方法については、オリエンテーションの際に説明します。
- (2) 1年次前学期・後学期の木曜3限と4限の「生涯スポーツ実習Ⅰ」と「生涯スポーツ実習Ⅱ」については、どちらか片方あるいは両方の科目を履修しますが、人数の都合上、希望どおりの時限で履修できるとは限りません。
- (3) 1年次前学期に、熊本という地域を対象とした「もやいすと（地域）ジュニア育成」と、1年次後学期に、防災を対象とした「もやいすと（防災）ジュニア育成」が開講されます。どちらかを選んで履修登録してください。また、どちらの科目も前学期中に共通のオリエンテーション及び一部の授業を実施します。
- (4) 共通科目の語学については、初修外国語も含めて様々な科目が用意されていますが、環境資源学専攻の学生は Basic English I～IV(合わせて6単位必修)を履修し、卒業に必要な残り2単位以上について、Intermediate English I, II(英語)を履修してください。
- (5) 共通科目については、必要な単位数を卒業までに修得すれば良いのですが、環境資源学専攻の場合、3～4年次にかけては、専門科目や卒業論文で忙しくなります。したがって、1～2年次の早い段階で卒業に必要な単位数を揃えておくようにしてください。

1年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	居住環境を創る	【健康の科学】	【Basic English I a】	【初修外国語】	【初修外国語】
2限 (10:20~11:50)	【プレゼミナール】 【キャリア形成論】		現代生活と環境問題	【情報処理入門】	食と環境
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】	【教養科目】 【地域理解とリサーチ】 【選択英語】	【地域理解とリサーチ】 【選択英語】	【生涯スポーツ実習 I】	環境共生論
4限 (14:30~16:00)	生物学 I	【Basic English I a】		【生涯スポーツ実習 I】	
5限 (16:10~17:40)				基礎化学	数学 I
6限 (18:00~19:30)		【もやいと (地域) ジュニア育成】		物理学 I	
集中講義	必修	選択	教職		

1年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	【データサイエンス入門】	【Basic English II a】	【Basic English II a】	【初修外国語】	【初修外国語】
2限 (10:20~11:50)	物理学 II				情報処理実習 A
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリサーチ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリサーチ】	【地域理解とリサーチ】 【選択英語】	【生涯スポーツ実習 II】	
4限 (14:30~16:00)	生物学実験 A		化学実験 A	【生涯スポーツ実習 II】	有機化学
5限 (16:10~17:40)		生物学 II			数学 II
6限 (18:00~19:30)	教職論				【もやいと (防災) ジュニア育成】
集中講義	必修	選択	教職		
	フィールドワーク	【Intensive English】			

2年前学期

	月	火	水	木	金	
1限 (8:40~10:10)	教育原理		高分子化学	水産環境学	教育心理学	
2限 (10:20~11:50)		環境分析化学	食資源開発学	植物食資源学	【初修外国語】 【選択英語】	
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリナーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリナーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリナーダーシップ】 【選択英語】	統計学	環境情報処理実習	
4限 (14:30~16:00)		【Intermediate English I a, b】	物理学実験	【Basic English III】		
5限 (16:10~17:40)						
6限 (18:00~19:30)	データサイエンス演習					
集中講義	必修	選択				教職
	沿岸域環境アセスメント実習、水産環境アセスメント実習					

2年後学期

	月	火	水	木	金	
1限 (8:40~10:10)	統計学演習	特別活動及び総合的な学習 の時間の理論と方法	プランクトン学	【Intermediate English II a】		
2限 (10:20~11:50)	統計学演習	【Basic English IV】	森林生態学		【初修外国語】 【選択英語】	
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリナーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリナーダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリナーダーシップ】 【選択英語】	環境経済学	海洋生態学	
4限 (14:30~16:00)	大気環境学実験		作物生産学	高分子化学実験	環境分析化学実験 I	
5限 (16:10~17:40)		【Intermediate English II b】				
6限 (18:00~19:30)		海藻学				
集中講義	必修	選択				教職
	森林環境アセスメント実習、生物濃縮論					
	【もやいすとシニア育成】 海洋微生物学					
	特別支援教育、教育の方法と技術					

(注) 表の見方は65頁を参照する。

3年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育制度論 農業科教育法 I	教育課程論		生徒指導の理論と方法	
2限 (10:20~11:50)	職業指導 (農業)	水環境科学		大気環境学	沿岸環境保全論
3限 (12:50~14:20)	魚類環境生理学 (隔週)	食品分析学	Science English I	環境素材学	植物生産環境アセスメント実習
4限 (14:30~16:00)		(就職支援)	応用情報処理実習		
5限 (16:10~17:40)	地学 I	エネルギー環境学 (隔週)			環境関連法規 (隔週)
6限 (18:00~19:30)	森林資源学				

集中講義	必修	選択	教職
			地学 I、地学実験 I

3年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育社会学		農業科教育法 II	教育相談の理論と方法 (進路指導及びキャリア教育を主心。)	
2限 (10:20~11:50)		環境共生総合演習	食品安全性学	地域景観計画学	Science English II
3限 (12:50~14:20)			環境衛生科学		
4限 (14:30~16:00)		(就職支援)			
5限 (16:10~17:40)		環境計量演習			
6限 (18:00~19:30)		地学 II			

集中講義	必修	選択	教職
			地学実験 II

4 年前学期

	月	火	水	木	金
1 限 (8:40~10:10)					教育実習指導
2 限 (10:20~11:50)					
3 限 (12:50~14:20)			農山村域計画学		
4 限 (14:30~16:00)					
5 限 (16:10~17:40)					
6 限 (18:00~19:30)					

集中講義	必修	選択	教職
	卒業論文		理科教育法Ⅲ、教育実習

4 年後学期

	月	火	水	木	金
1 限 (8:40~10:10)			教職実践演習(中高)		
2 限 (10:20~11:50)					
3 限 (12:50~14:20)		理科教育法Ⅳ(隔週)			
4 限 (14:30~16:00)					
5 限 (16:10~17:40)					
6 限 (18:00~19:30)					

集中講義	必修	選択	教職
	卒業論文		教育実習、教育実習指導

(注) 表の見方は65頁を参照する。

## 2 居住環境学専攻における履修モデル

### 【建築士受験資格と必修科目の関係】

一級建築士と二級建築士の受験資格の要件となる履修科目の多くは、居住環境学専攻の必修科目となっています。(受験資格の詳細については、56頁を参照すること。)

〈一級建築士〉、〈二級建築士〉

以下の指定科目の分類区分ごとにおける必要単位数を修得し、卒業すれば、直ちに一級建築士、二級建築士を受験できます。但し、修得単位数に応じて、免許登録時に必要な実務経験の年数が異なります。

### 【卒業要件と専攻専門科目の履修方法】

居住環境学専攻を卒業するためには、共通科目群から29単位以上、専門科目群の内、学科共通科目を11単位、専攻専門科目(卒業研究を含む)を96単位以上修得し、合計136単位以上修得する必要があります。(詳細については、34頁を参照すること。)

専攻専門科目(卒業研究を含む)に必要な96単位の内、62単位は必修科目です。従って、選択科目から34単位以上を修得する必要があります。選択科目を履修することにより、建築に関わる幅広い学問を身につけることができるので、皆さんの興味や思い描くキャリアに応じて自由に選択してください。次ページの表に、選択科目の分類と、各分野の学問の概要を示すので、シラバスと共に参考にしてください。



分野（担当教員）	選択科目	各分野の学問の概要
都市・地域計画 (柴田・鄭)	比較都市文化論 農山村域計画学 都市居住政策学 地域景観計画学	環境共生の智慧と技に満ちた農山村地域の暮らし・空間の在りようを保全し、現代社会に活かす方途について学びます。建築単体のみならず、街・村という全体空間の成り立ちと、環境としての地域景観の見方、整備のあり方について学びます。
居住空間計画 (高橋・佐藤)	インテリアデザイン論 インテリアデザイン実習 比較住文化論	居住空間計画分野では、住まいや建築を快適に、使いやすく、また美しく設計・計画するための基本的な技術を学びます。必修科目は住まいや建物計画の基礎的な考え方を学び、選択科目では、様々な住まいや建物への応用を学びます。これに並行して、居住環境デザイン実習（設計製図）で実際の住まいや建物を設計し、様々な住まいや建築に関する知識を総合化し、使いやすく美しい建物の設計の仕方を習得します。
環境調整・設備 (田中・辻原)	環境設備システム学演習 居住環境調整工学実験 環境調整工学	環境調整・設備分野では熱、空気、光、音環境を、建築の工夫や設備機器により調節するための原理と、システムについて学びます。必修科目では、快適性と環境負荷の削減を両立する方法の基礎を学び、選択科目ではその応用方法を習得することを目指します。近年の重要な課題である環境分野での活躍を視野に入れている学生は、積極的に受講してください。
構造・材料 (北原・李)	不静定構造力学 不静定構造力学演習 居住空間構造・材料実験 鉄骨構造学	構造・材料分野では居住空間の構築に関する力学、材料学、各種構法、構造システムについて学びますが、基礎意識は必修科目で修得することが出来ます。さらに構造・材料関係の意識を深めるためには、「不静定構造力学」、「鉄骨構造学」、「居住空間構造・材料実験」などの選択科目を習得してください。

※授業の詳しい内容はシラバスを参照してください。

以上の表のほかにも、「基礎科目」と「全体共通」に位置づけられる18科目（34単位）が開講されています。

居住環境学専攻における履修モデルを次ページ以降の表に示します。表の見方は以下のとおりです。

- (1) 黒枠囲みの科目：必修科目であり、これらの単位を修得しないと卒業できません。
- (2) 灰色塗りの科目：選択の専門科目であり、これらの中から卒業に必要な数以上の単位を修得しないといけません。
- (3) 【     】の科目：共通科目（科目名または科目分野名で表記）です。各科目群から卒業に必要な数以上の単位を修得するようにしてください。詳しくは「環境共生学部カリキュラムの概要（共通科目群）」の表（24頁）を参照してください。
- (4) 斜体にした科目：教員免許の取得に関係する科目です。詳しくは「各種免許の取得」の項（46～55頁）を参照してください。

### 補足説明（重要）

- (1) 1年次前学期の月曜2限は、同じ時間帯に2つの科目を登録することになります。その方法については、オリエンテーションの際に説明します。
- (2) 1年次前学期・後学期の「生涯スポーツ実習Ⅰ」と「生涯スポーツ実習Ⅱ」については、どちらか片方あるいは両方の科目を履修しますが、人数の都合上、希望どおりの時限で履修できるとは限りません。
- (3) 1年次前学期に、熊本という地域を対象とした「もやいすと（地域）ジュニア育成」と、1年次後学期に、防災を対象とした「もやいすと（防災）ジュニア育成」が開講されます。どちらかを選んで履修登録してください。また、どちらの科目も前学期中に共通のオリエンテーション及び一部の授業を実施します。
- (4) 共通科目については、必要な単位数を卒業までに修得すれば良いのですが、居住環境学専攻の場合、3～4年次にかけては、専門科目や卒業論文で忙しくなります。しっかりと計画を立てて卒業に必要な単位数を揃えていくようにしてください。
- (5) 教員免許状の取得に関係する科目のうち、教科及び教科の指導法に関する科目は、居住環境学専攻の専門科目のみを記しています（集中講義及び一部の指導法に関する科目を除く）。

1 年前学期

	月	火	水	木	金
1 限 (8:40~10:10)	居住環境を創る	【健康の科学】		【初修外国語】	【初修外国語】
2 限 (10:20~11:50)	【ブレゼミナール】 【キャリア形成論】	図学	現代生活と環境問題		食と環境
3 限 (12:50~14:20)	【教養科目】	【教養科目】 【地域理解とリサーチ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリサーチ】 【選択英語】	【生涯スポーツ実習Ⅰ】	環境共生論
4 限 (14:30~16:00)		【情報処理入門】		【生涯スポーツ実習Ⅰ】	【Basic English I b】
5 限 (16:10~17:40)	【Basic English I b, c】		居住環境デザイン実習Ⅰ		数学Ⅰ
6 限 (18:00~19:30)	【Basic English I c】	【もやいすと（地域）ジュニア育成】		物理学Ⅰ	
集中講義	必修		選択		教 職

1 年後学期

	月	火	水	木	金
1 限 (8:40~10:10)	【データサイエンス入門】	【Basic English II b, c】		【初修外国語】	【初修外国語】
2 限 (10:20~11:50)	物理学Ⅱ	建築史	情報処理実習Ⅱ	建築構法	【選択英語】
3 限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリサーチ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリサーチ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリサーチ】 【選択英語】	【生涯スポーツ実習Ⅱ】	
4 限 (14:30~16:00)				【生涯スポーツ実習Ⅱ】	
5 限 (16:10~17:40)		居住環境デザイン実習Ⅱ	【Basic English II b, c】	建築構造の基礎	数学Ⅱ
6 限 (18:00~19:30)	教職論				【もやいすと（防災）ジュニア育成】
集中講義	必修		選択		教 職

(注) 表の見方は72頁を参照する。

2年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育原理	建築環境工学 I			教育心理学
2限 (10:20~11:50)				木質構造学	【初修外国語】
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】	【教養科目】 【地域理解とリーディング】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリーディング】 【選択英語】	住空間計画学	比較都市文化論
4限 (14:30~16:00)		【Intermediate English I a, b】		居住環境デザイン実習Ⅲ	静定構造力学
5限 (16:10~17:40)	【Basic English III】				静定構造力学演習
6限 (18:00~19:30)	データサイエンス演習				
集中講義	必修	選択	教 職	沿岸域環境アセスメント実習、食品製造学	

2年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	道徳教育の理論と方法	特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法		地域計画論	建築環境工学 II
2限 (10:20~11:50)	居住空間材料学		森林生態学	比較住文化論	【初修外国語】 【選択英語】
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリーディング】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリーディング】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリーディング】 【選択英語】	環境設備学	【Basic English IV】
4限 (14:30~16:00)	CAD実習 I	インテリアデザイン論	居住環境デザイン実習Ⅳ	不静定構造力学	建築計画学
5限 (16:10~17:40)		【Intermediate English II b】		不静定構造力学演習	
6限 (18:00~19:30)	木質材料活用論				
集中講義	必修	選択	教 職	特別支援教育、海洋微生物学、生物濃縮論、森林環境アセスメント実習、教育の方法と技術	

3年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育制度論 農業科教育法Ⅰ	教育課程論	木質デザイン論	生徒指導の理論と方法	家庭科教育法Ⅰ
2限 (10:20~11:50)	職業指導(農業)	環境設備システム学			鉄筋コンクリート構造学
3限 (12:50~14:20)	都市計画	環境設備システム学演習	農山村域計画学		
4限 (14:30~16:00)	CAD実習Ⅱ 地学Ⅰ(5限のみ)	(就職支援)		居住空間構造・材料実験	インテリアデザイン実習
5限 (16:10~17:40)		エネルギー環境学(隔週)	居住環境デザイン実習Ⅴ		
6限 (18:00~19:30)					環境調達法規(隔週)
7限 (18:00~21:10)					
集中講義	必修		選択	教職	理科教育法Ⅰ、地学実験Ⅰ

3年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)			家庭科教育法Ⅱ 農業科教育法Ⅱ	教育相談の理論と方法 (進路指導及びキャリア教育を含む。)	
2限 (10:20~11:50)	都市居住政策学 地方自治論	環境共生総合演習	福祉住環境原論	地景景観計画学	建築施工学
3限 (12:50~14:20)	環境調整工学			環境経済学	居住環境調整工学実験
4限 (14:30~16:00)		(就職支援)		居住環境デザイン実験Ⅵ	鉄骨構造学
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)	地学Ⅱ				
集中講義	必修		選択	教職	理科教育法Ⅱ、地学実験Ⅱ、 教育社会学、食品保存学

(注) 表の見方は72頁を参照する。

4年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)					教育実習指導
2限 (10:20~11:50)		家庭科教育法Ⅲ			
3限 (12:50~14:20)					
4限 (14:30~16:00)			環境防災、安全工学		
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)			建築法規		

集中講義	必修		選択		教職	
	卒業論文				理科教育法Ⅲ、教育実習	

4年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)			教職実践演習(中高)		
2限 (10:20~11:50)			家庭科教育法Ⅳ		
3限 (12:50~14:20)		公共政策論(3限のみ) 理科教育法Ⅳ(隔週)			
4限 (14:30~16:00)					
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)					

集中講義	必修		選択		教職	
	卒業論文				教育実習、教育実習指導	

(注) 表の見方は72頁を参照する。

### 3 食健康環境学専攻における履修モデル

食健康環境学専攻における履修モデルを次ページ以降の表に示します。表の見方は以下のとおりです。

- (1) 黒枠囲みの科目：必修科目であり、これらの単位を修得しないと卒業できません。
- (2) 灰色塗りの科目：選択の専門科目であり、これらの中から卒業に必要な数以上の単位を修得しないといけません。食健康環境学専攻の学生としては、これらの科目をなるべく履修するようにしてください。
- (3) 【     】の科目：共通科目（科目名または科目分野名で表記）です。各科目群から卒業に必要な数以上の単位を修得するようにしてください。詳しくは「環境共生学部カリキュラムの概要（共通科目群）」の表を参照してください。
- (4) 斜体にした科目：教員免許の取得に関係する科目です。詳しくは「各種免許の取得」の項を参照してください。

#### 補足説明

- (1) 1年次前学期の月曜2限は、同じ時間帯に2つの科目を登録することになります。その方法については、オリエンテーションの際に説明します。
- (2) 1年次前学期・後学期の木曜3限と4限の「生涯スポーツ実習Ⅰ」と「生涯スポーツ実習Ⅱ」については、どちらか片方あるいは両方の科目を履修しますが、人数の都合上、希望どおりの時限で履修できるとは限りません。
- (3) 1年次前学期に、熊本という地域を対象とした「もやいすと（地域）ジュニア育成」と、1年次後学期に、防災を対象とした「もやいすと（防災）ジュニア育成」が開講されます。どちらかを選んで履修登録してください。また、どちらの科目も前学期中に共通のオリエンテーション及び一部の授業を実施します。
- (4) 共通科目の語学については、初修外国語も含めて様々な科目が用意されていますが、食健康環境学専攻の学生はBasic EnglishⅠ～Ⅳ（合わせて6単位必修）を履修し、卒業に必要な残り2単位以上について、Intermediate EnglishⅠ、Ⅱ（英語）を履修してください。
- (5) 共通科目については、必要な単位数を卒業までに修得すれば良いですが、食健康環境学専攻の場合、3～4年次にかけては、専門科目や卒業論文で忙しくなります。したがって、1～2年次の早い段階で卒業に必要な単位数を揃えておくようにしてください。

1年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	居住環境を創る	【健康の科学】	【Basic English I d, e】	【初修外国語】	【初修外国語】
2限 (10:20~11:50)	【プレミナール】 【キャリア形成論】	【Basic English I d, e】	現代生活と環境問題	【情報処理入門】	食と環境
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】	【教養科目】 【地域理解とリダーシップ】 【選択英語】	【地域理解とリダーシップ】 【選択英語】	【生涯スポーツ実習 I】	環境共生論
4限 (14:30~16:00)	生物学 I	被服学概論	化学実験 B	【生涯スポーツ実習 I】	解剖生理学
5限 (16:10~17:40)				基礎化学	調理学
6限 (18:00~19:30)		【もやいすと（地域）ジュニア育成】		物理学 I	
集中講義	必修		選択		教職

1年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	【データサイエンス入門】			【初修外国語】	生化学
2限 (10:20~11:50)	物理学 II 【Basic English II e】	生物学実験 B	情報処理実習 C	食品学総論	生命有機化学
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリダーシップ】	【地域理解とリダーシップ】 【選択英語】	【生涯スポーツ実習 II】	栄養教育論
4限 (14:30~16:00)	家庭機械・電気	育原学 (実習及び家庭看護を含む。)	調理学実習 I	【生涯スポーツ実習 II】	有機化学
5限 (16:10~17:40)	【Basic English II d】	生物学 II		生活経営学概論 (家庭経済学を含む。)	【Basic English II d, e】
6限 (18:00~19:30)	教職論				【もやいすと（防災）ジュニア育成】
集中講義	必修 フィールドワーク		選択 【Intensive English】		教職



2年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育原理	生体防御学	栄養生化学		教育心理学
2限 (10:20~11:50)	食文化論	栄養学総論	食資源開発学	家族関係論 植物食資源学	
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】	【教養科目】 【地域理解とリダーシップ】 【選択英語】	【教養科目】 【地域理解とリダーシップ】 【選択英語】	栄養教育論実習	食品化学
4限 (14:30~16:00)			【Intermediate English I d】 被服構成学実習 物理学実験		環境生理学
5限 (16:10~17:40)	調理学実習Ⅱ	【Intermediate English I c】	被服構成学実習 物理学実験		【Basic English III】
6限 (18:00~19:30)	データサイエンス演習			栄養学実験	

集中講義	必修	選択	教職
		食品製造学, 環境生理学実習	沿岸域環境アセスメント実習

2年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	道徳教育の理論と方法	特別活動及び総合的な学習の 時間の理論と方法	臨床栄養アセスメント	食品衛生学	
2限 (10:20~11:50)	臨床医学概論	特別活動及び総合的な学習の 時間の理論と方法 (栄養)	食品学各論	栄養指導論	【選択英語】
3限 (12:50~14:20)	【教養科目】 【地域理解とリダーシップ】 【選択英語】	栄養学各論	給食経営管理Ⅰ	食品加工学実験	食品加工学
4限 (14:30~16:00)	環境衛生学	被服構成学実習	作物生産学		【Basic English IV】
5限 (16:10~17:40)			発育発達運動学	解剖生理学実験	
6限 (18:00~19:30)	【Intermediate English II c】		【Intermediate English II d】		

集中講義	必修	選択	教職
		【もやしとシニア育成】	森林環境アセスメント実習, 特別支援教育, 教育の方法と技術

(注) 表の見方は77頁を参照する。

3年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	教育制度論 農業科教育法Ⅰ	教育課程論	公衆栄養学	生徒指導の理論と方法	家庭科教育法Ⅰ
2限 (10:20~11:50)	食品微生物学	給食経営管理学Ⅱ	健康管理学	疾病論	栄養運動生理学
3限 (12:50~14:20)	栄養機能性学	食品分析学	給食管理実習Ⅰ	食品分析学実験	臨床栄養治療学 (学生実験準備)
4限 (14:30~16:00)	食品衛生学実験 地学Ⅰ(5限のみ)	(就職支援)			
5限 (16:10~17:40)		学校栄養教育論	臨床栄養学実習	臨床治療食実習	
6限 (18:00~19:30)					

集中講義	必修		選択		教職	
			給食経営管理現地実習、臨床栄養学現地実習		理科教育法Ⅰ、地学実験Ⅰ	

3年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)			家庭科教育法Ⅱ 農業科教育法Ⅱ	教育相談の理論と方法 (進路指導及びキャリア教育を含む。)	地域栄養アセスメント実習
2限 (10:20~11:50)		環境共生総合演習	食品安全性学	生活習慣病予防学	
3限 (12:50~14:20)	ライフステージ栄養学演習	公衆衛生学	食品バイオテクノロジー	食品バイオテクノロジー実験	臨床代謝栄養学
4限 (14:30~16:00)	給食管理実習Ⅱ	(就職支援)	栄養情報管理学	生化学実験	栄養運動生理学実習
5限 (16:10~17:40)		食教育実践論	(学生実験準備)		
6限 (18:00~19:30)		地学Ⅱ	教育相談の理論と方法(栄養)		

集中講義	必修		選択		教職	
			食品保存学		理科教育法Ⅱ、 教育社会学、地学実験Ⅱ	

4年前学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)				実践栄養学総合演習	教育実習指導
2限 (10:20~11:50)	職業指導(農業)	家庭科教育法Ⅲ			
3限 (12:50~14:20)					
4限 (14:30~16:00)		(就職支援4月中)	臨床外科栄養学		
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)			栄養教育実習指導		

集中講義	必修		選択		教職	
	卒業論文		公衆栄養学臨地実習		理科教育法Ⅲ、教育実習、栄養教育実習(栄養教諭)	

4年後学期

	月	火	水	木	金
1限 (8:40~10:10)	管理栄養士特別演習	管理栄養士特別演習	教職実践演習(中高)		
2限 (10:20~11:50)			家庭科教育法Ⅳ		
3限 (12:50~14:20)		理科教育法Ⅳ(隔週) 教職実践演習(栄養)(4限のみ)			
4限 (14:30~16:00)					
5限 (16:10~17:40)					
6限 (18:00~19:30)					

集中講義	必修		選択		教職	
	卒業論文				教育実習、栄養教育実習(栄養教諭)、 教育実習指導、栄養教育実習指導	

(注) 表の見方は7頁を参照する。



# 大学関係の規程等について

- 1 熊本県立大学学則
- 2 熊本県立大学における教育研究上の目的に関する規程
- 3 熊本県立大学学位規程
- 4 熊本県立大学履修規程
- 5 熊本県立大学試験に関する規程
- 6 熊本県立大学成績優秀者表彰規程
- 7 定期試験の受験心得

※ 上記の学則・規程等は、熊本県立大学のホームページ及び学生ポータル内の「学生生活」の中にある「規程集」に掲載してありますので、必要に応じて読むようにしてください。







この冊子は再生紙を使用しています。